

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二六）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上  
村  
雅  
洋

凡例

五九 御用番留帳（寛文二〇年八月朔日～十二月晦日）

## 凡例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐次翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。





一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには( )で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(本学名誉教授)が行った。

五九 御用番留帳

(表紙)  
寛文十年

戌ノ八月ノ十二月晦日迄之

留帳

八月朔日

大殿様岩手ニ被為成御座候ニ付而、主税助召連夜之八半時分ニ和歌山罷出、岩手へ六半前ニ參着仕候処ニ、早追付陽山へ被為成候由承候ニ付、五前ニ御殿江罷出候処ニ、首尾能致御目見早ク參候由、御意被為成過分忝仕合ニ而、夫御先へ陽山へ致伺公候、今度致拝領候藤崎之屋布之家長屋と家一つ立、未かべもぬり不申候へ共、右之屋布へ直ニ參、支度仕陽山へ御着被遊候と、則罷上り候

一 殿様今今日之為御祝儀、御太刀目録御進上被遊候ニ付而、帶刀御使ニ被仰付致持參、御名代之御札相勤申候、其後左京様御太刀目録ニ而御礼被遊候、是ハ今度御領地御拝領被遊候ニ付、当年始而之御礼也、御長袴被為召候、帶刀ハ半

袴ニ而相勤申候

一 其以後又拙者父子致御目見候処ニ忝仕合也、帶刀ニ御熨斗被下、其以後左京様へ御熨斗被進、扱御跡ニ拙者、松之助、主税助ニも御熨斗被下頂戴仕、重畳過分忝仕合共也

一 其以後御酒被下候様ニと、御意ニ而左京様御相伴被仰付、帶刀、拙者、松之助御酒被下候、主税助をハ其前ニ拙者宿へ歸し申候、扱昼時分ニ御殿致退出、帶刀、松之助ハ左京様へ御礼致伺公候、夫今和歌山へ罷歸候、拙者父子ハ其前ニ左京様へ御礼ニ致伺公候ニ付、直ニ藤崎之屋敷へ罷歸、則作事申付、竹なとうへさせ申一宿仕候

同二日

今朝も早々今普請申付候御殿へ可罷出と存候処ニ、五過ニ大殿様粉川觀音へ御參詣被遊候由ニ付、少致延引御歸前御殿へ罷出、入御之節首尾能御目見いたし、扱良しハらく御前ニ罷有、今日ハ定環命日ニ而御座候など、被仰出、過分難有仕合ニ而昼時分ニ致帰宿、則又普請申付、今晚も一宿仕候、今日ハ主税助をハ召連不申候

同三日 五時分少雨

今朝も早々今普請申付、扱四時分ニ主税助召連御殿へ罷出

候処ニ、早速父子共致御目見、屋布之儀など御尋被為成、主税助も未罷有候哉、野をもあるき申候様ニなど、過分忝御意共也、其以後半入被召出、易を御よませ被為成候ニ付、主税助をハ宿へ歸し申、拙者ハ御前ニ罷有、右之構備承御あいさつ申上、昼時分ニ帰宿仕候、今日ハ門外之道両脇之どてなと拵、竹なとうへさせ、今晚も一宿仕候

一七過ニ左京様を為御使者三浦小八郎方被成下、過分忝御意ニ而御肴御くわし致拝領候、必御礼ニ罷上候儀致無用候様ニとの御意、殊今晚御のんきニ御出被為成候間、弥無用ニいたし候様ニと小八郎方立而被申聞候ニ付、伺其意先鈴木四郎兵方迄以使者申達、今晚ハ延引いたし候

#### 同四日

今朝四前ニ左京様御殿へ致伺公、昨晚以使者兩種致拝領候御礼、日根野九郎三郎方迄申達候処へ、左京様御殿へ御歸被為成候ニ付而、則右之御礼申上、夫々御殿へ罷出候処ニ、早速致御目見、しはらく御前ニ罷有候、いつ時分ニ罷歸候哉と御尋被為成候ニ付、御意次第ニ先明日ニも可罷歸由申上候へハ、左候ハ、明朝御囲ニ而御茶可被下之旨被仰出候ニ付、過分冥加至極成仕合可申上様無御座候、併降冥加

恐敷奉存候間、御台所ニ而御料理可被下之旨申上候へ共、兎角御茶可被下之旨御意被為成候ニ付而、重畳難有奉存候旨申上、御前致退出、昼時分ニ帰宿仕、普請作事等申付、門外之竹など植させ、芝迄付させ申候、今朝も早天を御殿へ罷出候節迄普請申付候

一明朝主税助をも召連罷出候様ニと御意之旨、鳥居五右衛門ニ入御申聞候

#### 同五日

今朝五前ニ主税助召連罷上候処ニ、父子共ニ早速致御目見過分忝御意ニ而、父子共ニ御料理被下、其以後御囲へ被召出御熨斗頂戴、扱御手前ニ而御茶被下候、尤御前ニ被召上、其御跡拙者頂戴仕候処ニ、主税助ニも給候様ニと御意ニ而御茶被下、又其御跡拙者給候而御茶碗平次右衛門ニ相渡候処ニ、御前へ指上ケ御仕廻被遊候共、以後御囲退出仕候処ニ、又御前へ被召出、種々忝御意共ニ而御暇被下、平次右衛門部屋迄罷出候処ニ、又主税助被為召、結構成御匂袋御手巾致拝領候、父子共ニ過分難有之旨平次右ニ御礼申達、夫々左京様御支閔迄致伺公御暇被下、和歌山へ罷歸候旨戸田弥次兵方ニ申達、夫々平次右宿所へ参、今朝之御礼委細申置、

昼前ニ帰宿仕、拟普請等申付、昼過ニ藤崎致出船、栗之木  
林の上り、暮合ニ和歌山へ参着仕候

同六日

終日宿ニ有之、替事なし

同七日

今日も終日宿ニ有之、替事なし

同八日

今朝堀田孫之丞方茶湯ニよび申候、但困ニ而、海安、水見  
相客也

一 今日八朔之為礼娘とも私宅へ参候

同九日

今昼時分ニ吹上屋布へ参、茶屋之破損など申付、八過ニ帰  
宿

一 高野山医王院当地へ被参候由ニ而、今晚七時分ニ私宅へ見  
廻被申候、就夫明朝振廻可申由約束申候

同十日 晩方少雨、夜ニ入候而も雨降

今朝医王院振廻申候、海安相伴頼申候、医王院被帰候と則  
堀田孫之丞見廻被申、しばらく書院ニ而語り申候

一 昼過分松野大学被参、馬とも見申候、権五郎、主税助ニも

けいこ致させ候、権五郎ニぶち馬、主税助ニ小栗毛とらせ  
申候

同十一日 五時分迄少つ、雨

終日宿ニ有之、替事なし

同十二日

昔沼九兵衛へ権五郎、主税助今晚振廻被申候ニ付、私等も  
おし懸参候、山口宗休老、鶴飼海安相客也、八時分分参、  
日暮候而帰宿、舞ニ次兵衛、今一人笛長藏、同与惣兵衛、  
小鼓弥兵衛参候

同十三日

今晚昔沼喜右方へ権五郎、主税助召連振廻ニ参候、当屋布  
ニ而始而之振廻ニ候故、喜右并奥へも我等方分看持参、山  
口宗休、飯嶋五郎右、小笠原与左衛門、真鍋五郎右衛門、  
鶴飼海安、三岡水見相客也、尤九兵衛被参候、八時分ニ参、  
夜ニ入五過ニ帰宿、佐阿弥、笛与三兵衛、小鼓弥兵衛参候

同十四日

娘風氣為見廻昼前ニ宇治屋敷へ参、夫分吹上屋布へ参、明  
晩何も被参候ニ付而、掃除の様子など申付、八時分ニ帰宿

同十五日

今朝ハ表へ罷出、今日之礼衆ニ逢申候

一 昼過ニ権五郎、主税助召連吹上下屋布へ參候、但権五郎、主税助ハ馬ニ而參候

一 飯嶋五郎右、小笠原与左、齋藤源藏、真鍋五郎右、鶴飼海安、三岡水見、長田左平太被參、夕食之振廻出し、夜ニ入候迄被有之月見候而四前ニ帰宿、但飯嶋五郎右をハ日暮候と頓而歸し申候

同十六日

大殿様御機嫌能、今晚七半時分ニ陽山ハ御新宅へ被為入候、拙者主税助七時分ハ罷出、入御之節首尾能致御目見、日の入時分ニ帰宿仕候、御新宅ハ罷帰候節、西之御丸へも致伺公、左京様ニも御機嫌能御帰被為成、日出度奉存之旨、御用人衆迄申達候

同十七日

大殿様今朝四前ニ和歌へ御參詣被遊、昼前ニ御帰館被遊候、今日も白御帷子被為召候、拙者儀今朝六半時分ニ御先へ致伺公、右御供相勤御跡ハ帰宿仕候

同十八日 八時分ハ雨、夜ニ入候而も雨降

今朝四前ニ御新宅へ罷出、首尾能致御目見良しバらく御前

ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候、権五郎儀久々御目見致させず候故、今朝召連罷上り、首尾能御目見致させ、御懇之御意ニ而召連罷帰候

一片岡ハ兵衛京都ハ參候ニ付而、今晚私宅ニ而振廻申候、水見斗相客也

同十九日

今朝四前ニ主税助召連罷出、首尾能致御目見、拙者儀シバらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同廿日

大殿様今朝四前ニ和歌御仏殿へ御參詣被遊、夫ハ養珠寺へ御參詣被遊、昼前ニ御帰館被為成候、拙者儀今朝五時分ニ御先へ致伺公、右御供相勤御跡ハ帰宿仕候

同廿一日 七時分ハ少雨

大殿様今朝四前ニ養珠寺へ御參詣被遊候、今朝之御法事御經三卷也、御參詣之御時分三卷目之御經初り、其内御配膳被遊候、御本膳三之御膳御ちやうし、御茶湯つくり花二桶御自身御備被遊候、右之御取次拙者ニ被仰付相勤申候、二之御膳其外をハ左京様御勤被為成候、出家衆持參候を直ニ左京様御請取御備被遊候、扱御經過称名之内大殿様御焼香

被遊、其御次ニ殿様御名代御焼香水野平右衛門相勤申候、  
扱左京様御焼香被遊候

一 右之通相濟、大殿様如例志水御備被遊、夫令妹背山へ御參詣被遊候、御焼香之次第右之御様子也、大殿様、左京様白御帷子ニ御長袴被為召候、妹背山令直ニ昼時分ニ御帰館被遊候

一 拙者儀今朝未明ニ宿罷出、日之出前ニ養珠寺へ參着仕候、御経初り候時分也、養珠寺ヲ御出被為成、妹背山へ御參詣之節御跡ニ而自分ニ奉拝、夫令妹背山へ御供仕相勤、夫令長袴着かへ、御跡令御新宅へ致伺公、今朝之御法事首尾能相濟、御機嫌能御參詣被遊目出度奉存之旨、御用人衆迄申達、昼過ニ帰宿仕候

一 大殿様今朝五前ニ御參詣可被遊との御事ニ御座候へ共、夜前御しづまりかね、少御服中氣ニ被成御座候故、今朝之御參詣少御延引被遊候、就夫今晚七過ニ又御新宅へ罷出、御用人衆迄御機嫌奉伺候処ニ、則達御耳御機嫌能被為成御座、御膳も被召上候間、心安可奉存之旨被仰出、則退出仕候

同廿二日 朝曇、風吹、殊外あつし

今朝四前ニ主税助召連罷出候処ニ、頓而首尾能致御目見、拙者しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同廿三日 大風雨も降、四時分ニ風止

頃打つ、き天氣合悪布、むしあつく時々少つ、雨降候へ共、あまだれ之落候程ハふり不申、夜前などハ別而あつく有之候処ニ、今朝六半時分風吹出し、御入国以後覺不申程之大風ニ而方々破損、我等屋布などニ而も天水吹落、路次之大松吹たをし、宇治ニ而も大木の吹たをし申候程之儀ニ而候

一 今朝風吹出し候と則御新宅へ罷出候処ニ、未誰も不罷出渡部六郎太斗出被申候と相見へ候、拙者罷上候段則達御耳、早速致御目見、早ク罷出候との御意ニ而、御酒ヲ給候様ニと被仰出過分忝仕合也、然所風も止不申、殊西ばま之在家ニ而火事出来、家五十間余程焼失之由、就夫火しつまり、風も止申候迄罷有、四過ニ帰宿仕候

一 御城内相替儀無御座候哉、登城可仕候へ共、先御新宅へ罷出候旨、今朝洪谷角右、川合勘左、志賀弥三左へ使指越候へ共、御城へも罷上り候処ニ、川井善太ニ逢申、次郎吉様御機嫌をも奉窺帰宿仕候

同廿四日

今朝六半過ニ宿罷出、昨日大風爲御見廻雲蓋院へ參候、是ハ昨日之大風ニ而御宮之かつを木吹おり申候由、夜前承候ニ付而也、但古ク成くちも入候故、吹おり申候と雲蓋院御物語也

一夫々妹背山へ致伺公候、是ハ御かり門昨日之風ニころび申候由、夜前承候ニ付而也、夫々養珠寺へ參、右之御様子なと申御寺御見廻之段申達候

一夫々大知寺、養行寺へ參詣いたし候

一大殿様四前ニ大知寺へ御參詣被遊候由、御下向之追付御跡へ、拙者儀和歌の大知寺へ伺公仕候

一養行寺の蓮心寺へ參候、昨日之風乍見廻之様ニ、又ハ明朝ハ參詣不仕儀も可有之と存致參詣候、住寺他行之由ニ而申置候

一追付御新宅へ罷上候処ニ、則致御目見今朝和歌へ致伺公候段申上、昨日之風の儀など御咄被遊、良しバラく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一八時分ニ雲蓋院私宅へ御出、藤崎屋布之門札御持參給候

同廿五日

今朝蓮心寺へハ爲代參左次兵衛遣し申候、五過ニ宿罷出、宇治屋布へ參候、是ハ一昨日吹たをし申候大木の枝とも昨日おろさ七候へハ、おきなをり候故、人二三人なけれ候由、夜前申ニ付、其木の様子見ニ參候

一四過ニ宇治屋布の直ニ御新宅へ罷上、首尾能致御目見、良しバラく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一左京大夫様、今日野上へ被成御座候

同廿六日

今朝日出時分坂田へ參詣仕候、是ハ当月二日ハ陽山ニ罷有參詣不仕、其上去廿三日の大風ニ而破損の所見廻り爲可申旁也、五過ニ帰宿、四時分ニ御新宅へ主税助召連罷上候処ニ首尾能致御目見、拙者宇治屋布大木の儀、御尋被爲成、誰ヲ左様之事かうしやなる者ニ御見せ被成度由、御意御座候ニ付而、内々の場源四郎、木下次郎四郎などニ見せ可申と奉存候由申上候処ニ、左二郎、次郎四郎可被指越由ニ付、拙者儀御新宅の直ニ宇治屋敷へ參候、次郎四郎も追付參候ニ付、木の様子見せ委申上候様にと申聞、次郎四郎歸し候而、八時分ニ帰宿仕候

同廿七日



今朝四前ニ主税助召連罷上候処ニ、首尾能致御目見、昼前

ニ御新宅分直ニ宇治屋布へ参ゑの木引直させ見申候処ニ、

存之外ねばりつよく有之候綱手ニ人あまた懸候儀、場所七

ばく、其上高声ニ而引直し候も事かましく候故、かたむき

候上手之ねニ、大ゑの木之枝大キなる数多取かけ、おもし

ニ置見申候処ニ、少ハ押直し申候、其様子承、夜ニ入、五

時分ニ帰宿仕候

同廿八日

大殿様今朝五時分ニ出御被遊、岩手へ被為成候、拙者儀今

朝五前ニ主税助召連罷出、出御之時分首尾能致御目見、御

立以後帰宿仕候

同廿九日

終日宿ニ有之、替事なし

同晦日

今昼時分水野十兵方、拙者宇治屋布之ゑの木見ニ被參候ニ

付、昼前ニ拙者も宇治屋敷へ参、十兵方へ右ゑの木見せ候

而、八時分ニ帰宿、戻リニ菅沼九兵風気見廻ニ立寄申候

一高氏之御書軸物ニ直し候ニ付、内々片岡八兵ニ頼指上せ可

申由、兼而約束仕候故、今晚私宅へ被參候故、表紙の儀頼

直ニ相渡越申候

九月朔日

居間之畳之表替など出来、伊藤三郎右衛門ニ当年始而詰さ

七候壺之茶、今朝のミ申候、夫分表へ罷出礼衆ニ逢申候

同二日 夜ニ入雨降

今朝六半時分ニ了法寺へ致参詣、四前ニ帰宿

同三日 七時分分雨

岩手ニ而小性衆取被申候百舌鳥七致拝領候、則為御礼御用

人衆迄以飛札申上候

一菅沼喜右、一昨晚少相煩被申候ニ付、今昼前ニ見廻申候、

将又岡野平太昨晚有馬分被罷帰候ニ付、平太へも見廻、八

前ニ帰宿仕候

一今八過分雨ふり出し、次第ニつよく、夜ニ入八時分迄大雨

かみなりもしげし

同四日

終日宿ニ有之、替事なし

同五日 夜ニ入少雨

大殿様未岩手ニ被為成御座候、左候へハ、拙者儀兎角重陽

之御礼ニ伺公可仕と奉存儀ニ御座候、藤崎之屋布半造作之時分、去大風ニ而破損つくろい旁はか不參候故、今朝未明ニ主税助召連和歌山ヲ罷出、六半時分ニ岩手へ參着、五過ニ御殿へ罷出、父子共ニ首尾能致御目見、過分忝御意ニ而早々藤崎へ參候様ニと御暇被下、昼時分ニ藤崎屋敷へ參着、則普請申付候

同六日

大殿様今日も岩手ニ被為成御座候、拙者儀終日藤崎屋布作事申付罷有候

同七日

大殿様今昼時分ニ岩手ノ陽山へ被為成候、御着以後拙者儀主税助召連罷上候処ニ、追付御前へ被召出首尾能致御目見、別而御機嫌能しはらく御前ニ罷有、御咄之御あいさつ申上、八前ニ藤崎宿所へ罷帰、極晩迄作事申付候

同八日 晩方雨

今日ハ作事ニ付罷出間布と存罷有候処ニ、光君様御祝儀之御事ニ付、何もニ御酒被下候間、拙者父子ニ罷出候様ニと御用人衆ノ被申越候ニ付、昼時分ニ主税助召連罷上り、首尾能致御目見御機嫌之御事ニ而、御祝之御酒盃被下給酔

申候、右御目見仕候節、主税助儀百舌鳥ヲも落し申候様ニおとり可被下由、御直ニ被仰間、則致拝領過分忝仕合也  
一 重陽之御祝儀殿様ノ御上被成候ニ付、水野平右衛門為御使御祝儀物御上ケ被為成候

一 大御所様御召被為成候御鑑、今晩方左京様へ被進之候、就夫拙者儀被為召候ニ付、又罷上御あいさつ申上、夫ノ左京様へも致伺公御悅申上帰宿仕候

同九日 昼時分雨

今朝五過ニ主税助召連罷出、追付首尾能致御目見今日之御祝儀申上、扱しはらく御前ニ罷有、夫ノ左京様へ致伺公、父子共ニ御のし頂戴仕、四過ニ帰宿、則終日作事申付候

同十日

岩手之北中ばさ村之辺ニ頃鶴三おり候ニ付、今朝五時分ニ陽山之出御被遊彼地へ被為成、則黒鶴壺つ御拳ニ而御取せ被成、七前ニ御帰館被遊候、右之御様子承候ニ付、入御前ニ主税助召連御殿江罷上致御目見候処ニ、御機嫌ニ而右之鶴江戸へ御上ケ可被成候旨、則被仰出候、拙者父子仕合殘所無之帰宿仕候

同十一日

大殿様今朝鹿山へ被為成候、其節来十三日ニ私宅江可被為成由被仰出候旨、御礼ニハ御帰館被遊候而罷出候様ニと原田市十方被申聞候ニ付、御帰館以後罷出、市十を以過分冥加至極成旨具ニ御礼申上候、就夫候而も重畳忝御意ともニ而退出仕候、其刻左京様御殿へも致伺公、天野孫惣方を以右之御礼申上罷帰候節、鳥居五右奉ニ而主税助百舌鳥二羽致拝領候由申越候ニ付、路次方御殿へ罷戻り、主税助罷出候ヲ相待、父子共ニ五右方へ御礼申上帰宿仕候、存之外作事出来かね申候ニ付、今晚八夜ニ入、四時分迄作事申付候

同十二日

今日も早天方作事申付罷有候、左候へハ明日自然不図左京様ヲ御同道被遊儀などハ御座有間布候哉、只今迄何之御沙汰も無御座候処、此方方可承様も無御座候、尤大殿様ニハあなた方可被為成候旨度々御意御座候ニ付而、作事出来のほとヲも市十迄申達候ニ付而、明日可被為成と被仰出候、左京様之御事ハ中々、此方方兎角ヲ可申上儀ニ而無御座罷有候、然共明日自然不図御同道など被遊候へハ、万事ゆき当り可申と存、何と仕可承やと色々思案いたし、今朝孫惣見廻被申候へ共、兎角ヲ不申出罷有候へ共、右之段何共難

心得候故、貴殿へ迄内証ニ而申進候、自然右之御様子などハ無御座候哉、必誰へも御物語無之、貴殿思召寄斗少御申聞可給由、市十方へ申越候へハ、其段大殿様達御耳被申候由、就夫被仰出候ハ、内々左京様御同道被遊度被為思召候へ共、拙者儀何共不申上、市十なども兎角ヲ不申上候故、御見合被成候、一段御心ニ叶申候間、明日左京様御同道可被遊候間、其段早々拙者ニ申聞候様ニと被仰出候由、市十方返事參候故、則罷上重畳過分冥加至極成仕合可申上様無御座由、市十迄御礼申達、夫方左京様御殿へ致伺公、明日御同道可被遊由、大殿様被仰出、過分冥加至極ニ奉存候旨

天野孫惣方迄御礼申達、則帰宿仕、及暮候迄作事申付候

同十三日

今朝も岩手へ被為成、鶴をも御覧被成、昼時分ニ御帰館被遊候ニ付、則御礼御迎ニ罷上候処、早追付可被為成由被仰出候ニ付、市十方へ御礼御迎之段頼入、夫方左京様御殿へ致伺公、御取次衆迄御礼御迎之段申達、則帰宿仕候一追付大殿様、左京様御同道ニ而被為成候ニ付、拙者、主税助門外迄御迎ニ罷出候処ニ、御機嫌能今度俄ニ立申候小座敷へ被為入候、則御のし出し申候、扨拙者ニ呉服三つ、右

之内御尉斗目ハ上様御拝領被遊候内ヲ被下置之旨ニ而重  
置冥加至極と奉頂戴候、主税助ニも結構成呉服二つ、殊三  
つ引之紋御付被下置、父子共ニ忝奉頂戴候

一 扨罷出炭直し御膳指上可申哉と奉伺候処ニ、早々出し候様  
ニとの御意ニ而、本御膳拙者奉居、二之御膳主税助奉居候、  
左京様へも右同前ニ奉居候、御肴一色拙者持罷出、御父子  
様へ指上ケ申候

一 御酒御一こん被召上、其後御銚子の時拙者ニ御間見申候様  
ニと被仰付候ニ付、勝手盃持出、御前ニ而たぶくと請  
御間奉見候、其以後御盃台出し申候処ニ、御父子様御盃こ  
と被遊、扨御盃拙者ニ被下つ、けて三ばい被下候、然所ニ  
其御盃色々辞退仕候へ共、御前へ御取上被為成、扨主税助  
ニ御盃被下、其御盃左京様へ御取上被為成、扨拙者ニ被下  
つ、けて二はい被下、扨又其御盃左京様御取上被為成大殿  
様被召上、扨拙者ニ被下頂戴奉納候

一 御湯出候、御父子様本御膳拙者奉下申、二之御膳主税助奉  
下候、扨御茶くわし被召上、次之座布へ御出被遊候

一 花入鶴之一声之写直し、御花組指置申候処ニ御覽被遊候と、  
則鶴之一声ニ似申候由、御意被為成候ニ付、其写ニ而御座

候由世上ニ而申候由申上候処ニ、能似申候と御意ニ而御花  
被遊候、于今不始儀ながら御花殊外出来驚目申候

一 いつも今時分壺之口切指上申候ニ付、幸と昨日壺之口切、

今日右之茶指上申候処、御ほめ被為成大殿様被召上、左京  
様へ被進、其御跡拙者頂戴仕、過分冥加至極成仕合也、道  
具ハ懸物為家二首ノ歌、花入右之通茶入広沢、茶碗新小宝  
焼、茶杓利休さかひ、釜利休、丸釜水指伊賀水口、香箱  
き、やう三つ羽大鳥、御茶過候而御慰ニ御炭可被遊やと奉  
伺候処、御長座ニ候間、御立可被遊との御意ニ而出御被遊  
候、如例玄関前ニ而鈴木弥五左衛門、小林左次兵衛致御目  
見御羽折頂戴仕候、種々様々過分忝仕合共難申上候儀也  
一 御見送りニ門外迄拙者、主税助罷出候処、是今御のんきニ  
御あろき被成候間、御礼ニハゆるりと罷出候様ニと御意御  
座候ニ付、先宿へはいり、市十、孫惣相残り被申候故、御  
酒出し数盃被下候、鴨居善兵、加納角兵も居被申候、御茶  
道宗局も罷有候  
一 拙者申候ハ、翌日ニ各申請度存候へ共、はや明朝ハ早天ニ  
岩手迄被為成候御事ニ御座候へハ不罷成候間、今日被召上  
候御残り之茶振廻可申と申候而、右圍ニ而御残り之茶振廻

申、夫今為御礼陽山御殿へ父子罷出、市十を以今日之御礼  
申上候処、弥御機嫌能被為成御座之旨被仰出、夫今左京様  
御玄關へ致伺公、天野孫惣方へ御礼申上、帰宿仕候

同十四日

今朝岩手へ被為成候ニ付、拙者父子六半前ニ罷上候、左候  
へハ梅原弥大夫儀、内々御目通へも出し候様ニとの御儀ニ  
御座候へ共、拙者遠慮仕候、左候へハ在郷ハ不苦儀ニ而も  
可有御座哉と存、此度呼寄せ置申候、其段夜前市十へ物語  
仕候処ニ今朝達御耳被申候由、就夫早々呼寄せ候様ニと被  
仰出、俄召寄せ、出御之時分御玄關之前ニ而御目見致させ  
申候処、市十を以被仰出候ハ、親ニ而候者大坂ニ而りはつ  
ニはしり廻り候者の悴ニ而候、長門守ニ能奉公可仕由被仰  
出御羽折被下置候、於拙者過分難有奉存候旨々御礼申上  
候

一拙者退出之時分、原田市十へ見廻申旁々御礼申置候、市十  
へも頃色々御肝煎忝由申置候、将又成田庄次、落合十郎兵  
佐野良庵、頃節々見廻被申候礼返しニも參、帰宿仕、扱支  
度いたし、昼前ニ藤崎屋布罷出、岩手之御殿へ參、今朝之  
御礼をも原田市十江申達、夫今直ニ和歌山へ罷帰候

同十五日

今朝如例表へ罷出、礼衆ニ逢申候  
一大殿様今日昼過ニ岩手之爰元御新宅へ被為入候、其前ニ主  
税助召連罷出、入御之節首尾能致御目見しバラく御前ニ罷  
有、夫今西之御丸へも致伺公、左京様御機嫌能被為入候儀、  
今日之御祝儀旁御用達中へ申達、帰宿仕候  
一重陽之祝儀、又今度藤崎屋布へ被為成候、悦旁ニ今日娘と  
も私宅へ参いわひ申候

同十六日

今朝四前ニ御新宅へ罷出候処、早先刻々度々御尋被為成候  
由、左京様御意の由、拙者罷出候と、則左京様被達御耳候  
由、就夫早速御前へ被召出御機嫌能、今度御立被為成候御  
座ノ間へ、先日ハ先取あへず御移徙被為成候、今朝ハほん  
ニ御移徙被遊候、今晚ハ右御座ノ間ニ御しんなり、明朝御  
參詣可被遊由御物語被為成候、千万目出度奉存候旨御あい  
さつ申上、其以後良しバラく色々御咄とも御座候而、昼時  
分ニ退出仕候

一御新宅今直ニ菅沼喜右衛門所へ見廻、昼過ニ帰宿仕候

同十七日

大殿様今朝五時分ニ御參宮被遊候、未御法事之内ニ而シハ  
らく御聴聞被遊、四過ニ御帰館被遊候、如例御敷斗目ニ御  
長袴也

一 殿様御代參水野平右衛門相勤申候、拙者儀今朝六半時分ニ  
御先へ致伺公、右御供相勤、御跡ハ帰宿仕候、帯刀ハ病氣  
故不罷出候

同十八日

今日於和歌、如例御神事之御能御座候、左京様五前ニ和歌  
へ被成御座、五過ニ御能初ル、翁、弓、八幡、八嶋、采女、  
ゼがい、かんたん、祝言、右御能喜多七大夫參相勤申候、  
五番之筈ニ而御座候処、かんたん者雲蓋院所望ニ而仕候、  
鷲権之丞も參、狂言仕候

一 大殿様ニハワキ能初り候而被為成、三番目之御能相濟候而  
御帰館被遊候、右之内雲蓋院、養珠寺之隠居ニ御かり屋ニ  
而御対面被為成、御盆こと被遊候、拙者儀今朝六半時分和  
歌へ伺公いたし、右御あいさつなと仕、御能相濟候而左京  
様御帰之御跡ニ付、直ニ御新宅へ致伺公、今日之御能首尾  
能相濟目出度奉存候旨御用人衆迄申達、七時分ニ帰宿仕候

同十九日

夜ニ入雨

今朝四前ニ罷出候処、頓而致御目見シハらく御前ニ罷有、  
昼時分ニ帰宿仕候

一 大殿様今度藤崎拙者屋布へ被為成候、祝儀心ニ今晚一門之  
者など振廻申候、菅沼九兵、天野孫惣、正木五郎右衛門、  
小笠原与左衛門、鵜飼海安、三岡水見など也、何も八時分  
ニ被參、夜ニ入五過ニ歸り被申候、舞々とも呼候而まわセ  
申候

同廿日 夜中ハ雨

昨夜中ハ雨ふり出し、今朝ハ大雨也、大殿様少御セキ御座  
候故、為御養生之御延引被遊候、為御代參松平九郎左衛門  
御上り被為成候、左京様ニハ大雨之最中五時分ニ御參詣被  
遊候、拙者儀罷出、左京様致御目見、御歸り之御跡ニ付直  
ニ御新宅へ罷出御機嫌奉伺候処、頓而御前へ被召出、今朝  
ハ誰も不參候由、拙者斗罷出候と左京様被仰上候旨、御意  
ニ而仕合能、追付帰宿仕候

同廿一日

大殿様今朝五過ニ養珠寺へ御參詣被遊、夫ハ妹背山へ御參  
詣被為成御帰館被遊候、拙者儀今朝五前ニ致伺公、右御供  
相勤、御帰館以後帰宿仕候

一 明日於西之御丸喜多七大夫ニ御能被為仰付候ニ付、左京様今日昔沼九兵衛宅へ御移り被為成候故、拙者儀八時分ニ九兵衛所へ見廻、夫々御新宅へ罷出候処ニ、一陽ニ御年譜御よませ被為成候、折節ニ而則致御目見候処、罷出承候様ニと御意ニ而良しはらく御前ニ罷有御挨拶申上候、能時分ニ罷出仕合能、又夫々九兵衛所へ見廻、左京様御出ヲ相待罷有候

一 左京様暮合前ニ御新宅の直ニ九兵衛所へ被為入候、其節首尾能致御目見、御機嫌能御挨拶申上、暮合ニ帰宿仕候

同廿二日

当春大殿様万事御首尾能御帰国被遊候、為御祝儀從殿様御能可被仰付との御事ニ御座候処ニ、何角と相延今度喜多七大夫罷越、去十八日之御能相勤、扱今日於西之御丸御能被仰付候、式三番七大夫、高砂喜太夫、兼平七大夫、江口七大夫、鵜飼七大夫、三輪七大夫、藤栄七大夫、祝言喜太夫、鷺権之丞も參、狂言被仰付候、あそう権之丞、包丁むこ同人、なき海士同人、ぢしやく市太夫、あく坊権之丞

一 御中入之時、御書院ニ而左京大夫様御相伴ニ而御膳被召上、御用達衆迄御前へ被召出御酒被下候、帯刀、拙者御盃頂戴

仕候、其外左京様御盃被下候衆も御座候、今度ハ帯刀、拙者、平右衛門、松之助斗御盃台御書院ニ而指上申候、其外之衆ハ無用ニ被仰付候、町人共折指上候儀も無用ニ被為仰付候

一 七時分ニ御能相濟、則御帰館被遊候、拙者共御跡の御新宅へ致伺公、今日之御祝儀申上、帰宿仕候

一 今晚左京様へ昔沼九兵衛御茶指上申候ニ付、拙者儀御相伴被仰付、又日ノ入合前ニ九兵衛所へ參御相伴相勤、夜ニ入

四前ニ帰宿仕候、囲分勝手へ御出被為成、喜多七大夫ニ御まわセ被為成候

同廿三日 夜ニ入雨降

今日ハ御新宅ニ而七大夫ニ御能被仰付候、加茂七大夫、知章<sup>ちさ</sup>同人、野々宮同人、藤戸同人、海士同人、黒塚同人、橋弁慶同人、祝言狂言、なべ八鉢権之丞、あわた口同人、宗輪市大夫、朝比奈権之丞、こんくわい同人、隠居衆拙者共ニ見物致し候様ニと被仰付、終日見物仕候、帯刀ハ服病氣故見物不仕候、拙者ニハ權五郎、主税助召連罷出候様ニと御意ニ而、両人之悴子共ニも見物致させ、過分忝仕合也、今朝四前ニ御能初り、暮合ニ相濟、何も御札申上退出仕候

同廿四日 時々小雨

大殿様少御セキ出申候ニ付、今日大知寺へハ仏參御延引被遊、為御代參原田市十郎御上ケ被為成候

一 左京様今朝五過ニ大知寺へ御參詣、夫ハ養行寺へ御參詣、扱御新宅へ御出被為成候、拙者儀今朝五前ニ大知寺へ致伺公、左京様御參詣ヲ相待、養行寺へも御跡ニ付致伺公、御新宅へも直ニ罷出候

一 御新宅ニ而頓而致御目見、しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候、今朝ハ地震、雨も少降申候

同廿五日 四時分迄雨

今朝早天ニ蓮心寺へ致參詣、帰宿仕支度いたし、四時分ニ御新宅へ罷出候処ニ、追付致御目見良しハらく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

同廿六日

今朝四前ニ主税助召連罷出候処、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 今晩昔沼九兵、本阿弥光円、森田休庵、三宅古齋同道ニ而今八時分私宅へ被參候、料理出し居間ニ而語り申候、九兵ハ御用候而、日暮候と追付帰り被申候、残りハ五過ニ帰り

申候、海安、水見も右之通也、小笠原与左も夜ニ入參語り被申候

同廿七日

今朝四前ニ罷出候処ニ、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有、退出直ニ菅沼喜右所へ煩見廻ニ參、昼過ニ帰宿仕候

一 蜂須賀千松殿ハ如何綱懸之鶴御進上之使者長谷川助之丞と申仁參候、私へも如例ニ居給候、万事使者宿ニ而の御馳走也

同廿八日 夜ニ入、四過分雨

今朝四前ニ主税助召連罷出候処ニ、首尾能致御目見、隠元茶など何もニ被下、良しばらく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一 今晩和歌御宮御仮遷宮ニ付而、従大殿様為御代參拙者御上ケ被為成候、就夫暮合前ニ和歌へ參着仕、万雲蓋院へ窺申候処ニ、日暮候而御山へ罷上候様ニとの儀ニ而、其節神樂所迄罷上、御遷宮之節御唐門之外迄致伺公相詰、扱又神樂所へ參御法事の内罷有、扱御法事相濟候と御代參相勤申候、拙者相勤候以後殿様為御代參帯刀相勤申候、其後水野平右衛門、松平九郎左衛門罷出奉拝候、九郎左衛門をハ拙者ニ



御指添被為成候、帶刀拙者熨斗目長袴ニ而相勤申候、万事雲蓋院指図也

一四時分ニ御法事相濟直ニ御新宅へ罷出、万事首尾能相濟申候段申上候、其節迄大殿様御表ニ被成御座候故御直ニ申上候、天气迄能御機嫌の御事也、何も御酒被下候様ニと過分忝御意ニ而退出仕候

同廿九日

大殿様昨今御參宮可被遊との御事ニ御座候処ニ、少御寒氣之御心御座候、其上風も吹ひゑ申候ニ付、兩日共ニ御延引被遊候、就夫今日之御代參ニも拙者ヲ御上被為成候、昼前迄御見合被為成候ニ付而、御新宅々直ニ和歌へ致伺公雲蓋院へ右之段申聞候処ニ御尤至極成由被申、則御山へ被罷上候、追付拙者も罷上御代參相勤申候、昨晚も長袴着シ候間、今日も左様ニ可致やと雲蓋院へ伺申候処ニ、今日ハ常のごとく半袴可然由被申候ニ付、其通ニ仕候

一和歌々直ニ御新宅へ致伺公、御代參首尾能相勤申候段申上、八時分ニ帰宿仕候

一左京様ニハ御參詣被遊候、但拙者御代參相勤候而、少後ニ御參詣被遊候御ゑほし也

同晦日

大殿様今朝四前ニ和歌御宮へ御參詣被遊候、先雲蓋院へ被為寄、御ゑほし御道服ニ而御參宮被遊候、御仮殿ニ而しバらく御拝御座候而、又雲蓋院へ被為入、御装束ぬかせられ、御羽織御袴ニ被為召、雲蓋院としバらく御咄被為成、夫々養珠寺へ被為寄、昼時分ニ御帰館被遊候、拙者儀今朝少御先へ致伺公、大紋着し右御供相勤、養珠寺へも御供仕、扨御跡ニ付御新宅へ致伺公、則致御目見御機嫌能御參詣被遊目出度奉存之旨申上候処ニ、頃ハ毎度相勤申候、何ぞ御勝手ニ而被下候様ニと過分忝御意也、今日和歌へ之御供仕、是へも伺公いたし候哉と御意之旨ニ而、重畳仕合能帰宿仕候

十月朔日

今朝四前ニ主税助召連罷出候、然所ニ昨日從中納言様当年之御壺之口被為切御上被成候御茶、今朝御圍ニ而被召上候間、拙者式ニも御圍之御次へ罷出候様ニとの御意ニ而、俄ニかたきぬ着シ罷出候、大殿様御手前ニ而御茶被召上、左京様へ被進、其御跡帶刀、拙者、平右衛門、松之助頂戴仕

候、其以後御前ニ而御酒被下候、其内何も御目見仕候、扱御次之御座敷ニ而、又御吸物御酒被下、何も退出仕候

一大殿様頓而堂形辺へ御のんきニ御出被為成候、拙者儀ハ少御用御座候間、相待候様ニと御直ニ御意被為成候ニ付、御帰ヲ相待御新宅ニ罷有候処ニ、追付被為入直ニ御前へ被召出、しばらく罷有、昼過ニ帰宿仕候

一七時分ニ宇治屋布へ參、破損つくろいの様子見申、又先日之々の木の根、うめさせ、日の入相ニ帰宿仕候

同二日 時々小雨、少あられ降

今朝六半前ニ罷出、了法寺へ參詣仕候

一大師御証月故坂田々直ニ和歌へ參詣仕候、はや御法事濟御代參大久保八郎五郎相勤候時分ニ而、其以後頓而大師堂へ致參詣焼香仕奉拜候、僧正も未御堂ニ御入候朝五過也、先雲蓋院御寺へ參、扱右之通也

一和歌を帰りニ吹上下屋布へ立寄、かたきぬをもぬき、御新宅へ致伺公候、昼時分也、早先刻御尋之由ニ而、則被召出ししばらく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候

同三日

今日左京大夫様御口切之御茶於御新宅大殿様へ御上被為成

候、但御能も御座候、今朝五半時分ニ初ル、養老喜大夫、

道盛左京様、井筒同、野守同、天鼓同、但御所望ニ而、祝言喜大夫、右御能三番相濟、御膳出御盃台ニ而御盃こと御座候而、拙者共其外何も御前へ被召出御酒被下候、尤御勝手ニ而御料理被下候

一御膳相濟御困へ被為入、左京様御手前ニ而御茶御上被為成候、大殿様被召上、左京様へ被進、其御流拙者共ニ被下奉頂戴候、御道具ハ一山一行物、御花入かねの物、御茶入にら山、御釜冬こずへ、御茶腕新身也

一御茶過候而御能初り、御杉重御吸物など出、又御前へ御酒出申候、其節又拙者共何もニ御酒被下候、扱左京様御盃御納被為成御帰被遊候、拙者式も御跡々退出仕、扱左京様へ致伺公、今日之御祝儀又御勝手ニ而御料理被下候御礼をも申上候、拙者儀今朝五時分ニ罷出、右之通相勤日之入相ニ帰宿仕候、帯刀、平右衛門ハ今朝寄合ニ而御能二番過候而罷出、右之通也

一今晚御けいこ之御祝ニ而御座候、御隱居被遊候而ハ、急度いたしたる御祝ハ無御座、有合候衆斗御次之御座敷ニ而御祝之餅いたゞき申答也、就夫帯刀、平右衛門なども罷

出候、拙者儀も其通ニ而候へ共、拙者儀ハ各別之儀、其上冥加之ため主税助指上可申候、悴之儀ニ而候間、拙者召連可罷上やと、市十、平次右へ相談申候処ニ、尤の由ニ候故、六半時分ニ主税助召連罷上候

一 左京様今日之御礼旁ニ御新宅へ御出被為成御座候而、拙者ハ罷出候哉と御尋被成候由ニ付、則左京様御前へ罷出候処ニ、今日之御太慶今晚之御祝之御様子など御咄被為成、しばらく御前ニ罷有御次へ罷立候、其以後追付左京様御出被為成、今晚之御祝之御様子、右之通ニ而御座候間、左様相心得候様ニと大殿様御意之様ニ被仰聞候

一 拙者儀罷出候由達御耳、頓而御前へ可被召出之旨、平次右衛門を以忝御意被成下、其以後追付御前へ被召出、主税助をも召連罷出候哉との御意にて主税助をも被召出、扱御祝右之通ニ而御座候間、御次ニ而いわひ申御酒をも被下罷帰候様ニとの過分忝御意ニ而、御前之罷立御次之御座布ニ而御祝頂戴仕、何も頂戴主税助も頂戴仕、則退出可致と仕候処ニ、又拙者、主税助御前へ被召出、御祝ハ右之通ニ而候、扱御前へ別ニ御いわひ出申候間、目出度御手合被下之旨ニ而、拙者、主税助斗御手合御祝之餅奉頂戴、重畳過分難有

仕合可申上様無御座御前致退出候処ニ、又候哉御勝手ニ而御酒被下候様ニと御意御座候而、其以後左京様御意被成候もケ様ニ度々御意御座候間、是非御酒被下罷帰候様ニとの御意ニ而、市十、平次右、九郎左、久右など取持ニ而御酒頂戴仕、冥加至極成仕合ともニ而、四前ニ帰宿仕候

同四日

今朝四前ニ罷出候処ニ、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有、其以後雲蓋院被致御目見候節も御あいさつ申上、又其以後御前へ罷出、昼過ニ帰宿仕候

同五日

今朝五過ニ主税助召連罷出、則首尾能致御目見、四時分ニ御新宅合直ニ宇治屋布へ參、夜ニ入六半時分ニ帰宿仕候

同六日 晩方少雨

今朝四前ニ罷出、追付致御目見良久しばらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同七日

今朝四前ニ罷出、則致御目見良久しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一 今度左京太夫様於予州御知行三万石御拝領被遊候ニ付而、

從殿様被進之候五万石之内三万石御返進被成度由、左京様被仰上候へ共、從殿様立而其儘先被指置候様ニと御意被成候ニ付而、從大殿様御両方様御意被成様、何も御尤ニ被思召候、併三万石ハ御納さ七被為成候様ニと再三之御意ニ而、左候ハ、大殿様御意次第ニ御座候旨、昨晚從殿様御返事參候而、大殿様、左京様御機嫌之御事ニ而、今朝帶刀、平右衛門ニ右之段々委被仰聞、奉行衆志賀弥三左衛門ニも帶刀、平右衛門申渡候

一一昨日磯脇分壺の口切茶越被申候故、今晚真鍋五郎右、海安、水見呼候而披キ給候

同八日

今朝四前ニ主税助召連罷出候処ニ、頓而致御目見良しばかり御前ニ罷有、昼時分ニ御新宅分直ニ宇治屋敷へ參、破損之所申付、八前ニ帰宿仕候

一主税助儀今朝始而御勝手向分罷出御目見仕候、次第ニ成人いたし、節々罷出万見ならわセ候様ニなど、重畳過分忝御意とも也

同九日

今日八日覺様十三回忌ニ而於養珠寺御法事御座候、殿様御

代參ニ志賀弥三左衛門被仰付候由、万事之肝煎中川七左衛門被仰付候由、拙者共儀參詣仕可然存候へ共、只今迄之御年忌ニも何も參詣致候儀覺不申候ニ付、原田市十、加納平次右方へ内談申候処ニ致無用ニ候様ニとの儀ニ而、拙者共仲間何も參詣不仕候、左候とても冥加之ため今日ハ情進仕候

一吹上寺当八月朔日分へきがんの講尺被致候ニ付、致參詣聽聞仕度内々存候へ共、何角と手透無之延引いたし候ニ付、幸と存吹上寺へ參、へきがん聽聞いたし、五時分ニ參、昼前ニ吹上寺罷出候

一直ニ御新宅へ罷出候処ニ、則致御目見、今朝吹上寺へ參、へきがん聽聞仕候儀など申上、しはらく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候

同十日

大殿様今朝五過ニ出御被遊岩手へ被為成候、拙者儀主税助召連五前ニ罷出、出御之時分首尾能致御目見、夫分吹上下屋布へ參、喜右衛門、平大夫方へ見廻、八時分ニ帰宿仕候

同十一日 未ノ月夜ニ入雨降

今晩七前ニ和歌山罷出、鷹場へ參候、きれノ流ニ而大鷹ニ

而真鴨一つ、小鴨一つ取せ申候、但四よりにて、夫分岸ノ

鷹場へ参、大す鷓ニ而鶉九つ取せ申候、但十四よりニ而、

八過ニ上野山屋敷へ着申候

一大殿様岩手ニ被為成御座候ニ付而、右之鶉三つ指上申候

一今日ハ権五郎、主税助召連申候、あかけとや之鷓ニ而権五

郎鶉一つとらセ申候

一水見左平太方鷹場へ被参候、永庵召連申候

同十二日 四時分雨降、風も吹

今朝早天ニ宿罷出、長山之あなた大池之入ニ而真鴨一つ大

鷹ニとらセ、則上野山へ帰り、夫分致支度四過ニ鷹野ニ出

鶉五つ大す鷓ニとらセ候、今日ハ鶉早立ひらミ候故より数

ハさらセ候へ共、五つ之手ぎわすくれてよし

一拝領之す鷓ニ鶉一つ一よりニ而、とらセ候手ぎわすくれて

よし

一はやふさニ鶉一つ、左平太こぶしニ而とらセ被申候

一晩方上野山屋敷之ウラの池ノ入ニ而真鴨一つ大鷹ニとらセ

申候、同所ニ而大す鷓ニ小鴨合候処ニおん鳥を手ぎわよく

とり候へ共、あさくかけ候故か下ニ而もぎはなされ候

一主税助つミニ而せんうとらセ申候、其以後百舌鳥をもと

らセ申候

同十三日

今日ハ精進故、鷹野ニ不出候

同十四日

今朝早天ニ上野山屋布之ウラ池ノ入ニ而、大鷹ニ小鴨一つ

とらセ申候、同所ニ而大巢鷓ニ小鴨一つとらセ申候、手ぎ

わよし

一其以後銭が池ニ而大鷹ニ真鴨一つとらセ申候、夫分上野山

屋布へ戻り致支度、又鷹野ニ出候、西山之池ニ而鈴鴨一つ

大鷹ニとらセ申候

一大単鷓ニ鶉三つとらセ申候

一はやふさニ鶉一つとらセ申候

同十五日 夜明時分小雨

内々今日陽山へ可致伺公之旨於和歌山申上候ニ付而、左様

相心得罷有候処ニ、左京様与州へ之御門出之御祝心ニ今日

左京様御振廻被遊候間、弥今日陽山へ致伺公候様ニ御意

之旨、昨夜半過松平九郎左之書状、上野山へ参着申候ニ

付、猶以致支度今朝日ノ出時分上野山罷出、陽山へ致伺公

候、先藤崎之屋敷へ参着、致支度御振舞之御時分承合、四

過ニ御殿へ罷上り候、権五郎、主税助をも召連罷上り候、  
権五郎儀ハ藤崎之屋敷終ニ見不申候ニ付、鷹場分直ニ召連  
申候

一 罷上り候と、則致御目見候処ニ、能時分伺公仕候との御意  
ニ而父子共ニ仕合残所無之候

一 左京様御殿へ御出被成御座候故、則父子共ニ致御目見、是  
又忝仕合也

一 昼時分ニ御能初り申候、老松喜大夫、田村左京様、とうほ  
く同、立田同、猩々同、右御能ニ番相濟候而、御膳出御盃  
之台ニ而御盃事被遊候、御盃の上ニ而御指領江戸政光之御  
腰物被進之候、拙者ニ御取次被為仰付候、扱御膳相濟御困  
ニ而御茶被進之候、当年之御壺昨日御口被為切、御茶先和  
歌御宮へ御献上被遊、扱今日始而被召上左京様へ被進之候、  
其御跡拙者頂戴仕、快遊、三説いた、き申候、過分冥加至  
極成仕合也

一 又御能初り、其上ニ而後段出御盃の台ニ而御盃事被遊、御  
弓御廻被進之候、其御取次をも拙者ニ被為仰付候、就夫候  
而も重畳過分難有御意とも身ニあまり申候

一 右御盃ニ而御納被為成、左京様御退出被遊候、快遊、三説

も罷越、右之節御前へ罷出御あいさつ申上候、右御能之内  
拙者儀御盃被下、剩御前へ御取上ケ被為成、左京様御盃を  
も頂戴、是又右之御様子ニ而数盃被下殊外給醉申候、左京  
様御退出之上、快遊、三説同道仕、左京様御玄関ニ而右之  
通御悦申上、夜ニ入五時分ニ帰宿仕候

同十六日

藤崎拙者屋敷へ先日御成已後早速和歌山へ罷帰候故、何も  
振廻申儀も無之候間、内々連／＼ニ何も振廻可申と存罷有  
候、此度ハ松平九郎左御用人衆斗ニ而御座候処ニ、快遊、  
三説右之通陽山へ被參、市十、平次右、久右なども被參候  
故、幸ノ儀と存、今朝可被參哉と昨晚物語申候へハ、何も  
可被參由ニ而、快遊、三説、市十、平次右、九郎左、久右、  
郷左何もそろい候而被參候、九兵ハ勝手者也、今度鷹場ニ  
而とらセ候鴨、鶉料理いたし、鷹野鳥披キ迄仕、首尾能何  
も緩々と語り被申、四過ニ私宅分直ニ御殿へ何も被能出候、  
拙者も追付罷上り候

一 今朝何も私宅へ振廻申候儀はやとく御耳ニたち、今朝ハ拙  
者所へ何も振廻ニ參候哉など、御意御座候由、拙者も追付  
致御目見候処ニ、御機嫌能今朝ハ何も振廻申候哉、かろき

作事ニ而ハ候へ共、すまひも能候、茶ノ湯いたし候者ニ御見せ被成候ハてなと、之快遊、三説へ之御ざれ事ニ而、何も其御言葉ニ応シ御あいさつ申上候

一左京様御殿ニ被為成御座、八時分ニ御帰御支度被為成、七時分ニ又御殿へ御出被為成候、則御吸物出御盃事被遊御暇乞被遊、御玄關今御出被為成、粉川へ御門出被遊候、今日ハ申ノ刻今酉ノ刻迄の内御時とり能故也

一左京様御出被為成候御跡ニ御前へ罷出、今日ハ天気迄能思召御ま、の御門出被遊、千秋万歳目出度奉存之旨申上候、不大形御機嫌ノ御事ニ而幸初鯨參候間被下、御酒をも給候様ニとの御意ニ而右御料理御酒頂戴仕候、権五郎、主税助をも御殿へ召寄せ、左京様御出之御時分、大殿様、左京様へも御目見致させ申候処ニ、忝御意ともニ而、是又右之御料理頂戴いたし、先悴共をハ宿へ帰し申候

一其以後又御前へ罷出、しはらく御咄之御あいさつ申上、日ノ入相ニ帰宿仕候

同十七日

今日之為御代参加納平次右衛門夜前被仰付、和歌山へ被遣候

一大殿様今朝四時分ニ粉川観音へ御參詣被遊候、其御留主ニ拙者共御殿へ罷上り、入御之節首尾能致御目見、しはらく御前ニ罷有、八前ニ退出仕候

一左京様今朝御殿へ御出被成、大殿様出御之時分御対面被成御帰被為成候由、就夫拙者共左京様へハ御目見不仕候

一粉川今御帰之節、宮山ニ而松茸式本御とり被為成御機嫌之御事也、拙者儀ハ右之通退出仕候、快遊、三説ハ未家來之者不參候ニ付、御殿ニ相残り候処ニ、右松茸二つノ内一つ拙者ニ被下候、快遊、三説持參いたし、私宅ニ而致料理いたゞき候様ニと被仰出候旨ニ而兩人持參被申候、則披キ頂戴仕、則拙者儀為御礼罷上り、中川清三方ニ御礼之段申達、暮合ニ帰宿仕候、快遊、三説も可罷上と被申候へ共、先刻御殿今右之松茸被致持參、扱又老人之儀ニ候間、帰宿被申候様ニと拙者達而申候而宿へ帰候、其段も清三方へ申達候

同十八日

今朝四時分ニ御殿へ罷上り、頓而致御目見良しはらく御前ニ罷有候、内々今日ハ御慰ニ御能をも可被仰付哉との御事ニ御座候へ共、昨朝御行水被遊候故か少御風被為引候故、今日ハ御延被為成候様ニとの儀ニ而、八時分ニ帰宿仕候

一 今晩佐野良庵へ茶ノ湯ニ参候、松平九郎左殿相客也、八半時分ニ参、日暮候而帰宿仕候、道具ハ懸物利休文、花入カゴ、茶入カラ物そんなり、盆黒ぬり四方、茶碗長次郎やき、茶杓慶頂座、釜芦屋、水指織部時代之伊賀やき、香箱京やきもしなり、三つ羽鶴本白

同十九日 夜ニ入雨少降

昨晚良庵所ニ而約束いたし、今朝良庵九郎左殿振廻申候、但早天ニ被参、五時分ニ帰り被申候

一 四時分ニ御殿へ罷出候、頓而致御目見シバらく御前ニ罷有候、御風氣弥御かるき御事ニテ御機嫌能被為成御座候  
一 内々昨今之内御能をも可被仰付と被為思召候処ニ、少御風氣故御指延被為成候、左候へハ、快遊、三説儀和歌山へ罷戻り度候ハ、心次第ニ可罷帰候、惣而何時も心次第ニいたし候様ニと過分忝御意也

一 拙者儀も心次第ニ仕候様ニ、拙者儀ハ爰元ニ屋敷有之候とても同意ニ候間、左様相心得候様ニと過分忝御意也、今日ハ権五郎、主税助をも召連罷出候処ニ、首尾能致御目見悴共ハ小鳥などをもとり、あそび候様ニと重畳難有御意也、  
一 兩人之悴をハ追付宿所へ歸し、拙者儀ハ過ニ帰宿仕候

一 右之段、快遊、三説と申談、乍少御風氣之御事ニ而、昨今御能をも御指延被為成候間、明日明後日ハ逗留可然と申合逗留いたし候

一 晩方中川清三奉ニ而御鷹之鶉二つ致拝領候御礼ニ罷上り候儀ハ、今日ハ少雨ふり路次も悪布、其上及暮ニ候間、致無用候様ニと清三方被申聞候ニ付而、伺指図延引仕、先清三方迄以使者過分忝之旨申達候

同廿日

大殿様御風氣弥能被為成御座、最早御脈ニ御風之御心ハ無御座由、良庵申候由、拙者儀今朝四時分ニ罷出、追付致御目見シバらく御前ニ罷有、昼時分ニ退出仕候、快遊、三説も其通也

一 八過ニ左京様が為御使者村上源五兵を以忝御意ニ而、柿一折致拝領候、権五郎、主税助にもみつかん一折被下置候、権五郎儀ハ今朝和歌山へ指越申候ニ付而、則主税助召連粉川御殿へ罷出、御取次衆迄御礼申達候、夫が観音堂へ参、主税助ニ見物致させ、七時分ニ帰宿仕候  
一 明後廿二日、日法十七年忌ニ相当り候ニ付、権五郎儀今朝和歌山へ指越申候



同廿一日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、御酒被下候様ニと被仰出、快遊、三説、拙者三人御吸物ニ而御酒被下、其以後御前へ被召出御侍仏堂へ參詣仕候様ニと被仰出、夫又御前へ被召出、御くわし御茶など被下、良しバラく御前ニ罷有、過分忝仕合共ニ而、八時分ニ帰宿仕候

同廿二日

今朝四時分ニ主税助召連罷出候処ニ、頓而致御目見良しバラく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候、快遊、三説も同事也  
一松下左五之丞方を以被仰出候ハ、頃少御風氣故御慰之御相手ニも不被遊候、最早頓而和歌山へ可被為入候間、拙者共儀勝手次第第二和歌山へ罷越候様ニとの御意也、過分忝仕合ニ御座候、左候ハ、明日和歌山へ可罷越旨、左五之丞方へ御請申上候

一晩方中川清三方奉ニ而御鷹之鶉二つ致拝領候、此節も拙者儀勝手次第和歌山へ可罷帰之旨御意之由、清三方が被申聞候、則罷上り御礼旁清三方へ申上、帰宿仕候

同廿三日

今朝四時分ニ主税助召連罷上候処ニ、頓而致御目見、良し

バラく御前ニ罷有候、快遊、三説も同事也、昨日被仰出候

通拙者共儀最早和歌山へ罷戻り候様ニ緩々と御逗留被遊候ハ、又々召寄儀も可有御座との御意ニ而御暇被下、其上御鉄砲之麥喰、又熊之浦分參候鯨之御料理被下候様ニと被仰出、右二色御次ニ而頂戴仕、右御礼九郎左、左五之丞方迄申上致帰宿候、扨八時分ニ藤崎罷出、夜ニ入六半時分ニ和歌山へ參着仕候

同廿四日

晩方小雨、夜ニ入大雨

今日ハ何方へも不罷出、宿ニ罷有候  
一養行寺之寺号、白雲山報恩寺と御替被為成候旨江戸分申來、今日何も養行寺江被申渡候由、夜ニ入水野平右方分被申聞候

同廿五日

左京様明後廿七日爰元御出船之筈ニ而御座候ニ付、今七時分ニ陽山分当地へ被為入候、就夫西之御丸へ罷出、致御目見しバラく御前ニ罷有退出仕候

一今朝ハ蓮心寺へ為代參大多和治右衛門指越、拙者ハ參詣不仕候

同廿六日

左京様今朝和歌御宮ヲ始方々へ御參詣被遊、昼前ニ御帰被為成候、今日又陽山へ御越被為成候由ニ付、昼時分ニ権五郎、主税助召連西之御丸へ罷出つ候処ニ、早速首尾能致御目見忝仕合也、右ハ明日御出船之筈ニ御座候故、悴共御目見致さ七可申と存召連罷出候、夫々菅沼九兵所へ悴共召連暇乞ニ參候、九兵ハ西之御丸ニ被有之候ニ付申置、帰宿

一左京様八時分ニ陽山へ被成御座候由  
同廿七日

今朝四過ニ宇治屋布へ參、茶屋破損之普請申付、暮合ニ帰宿

同廿八日 時々小雨、夜ニ入初雪ふる

今朝表へ出礼衆ニ逢申候、終日宿ニ有之替事なし

同廿九日 今朝ハ雪少つもる

菅沼九兵、天野孫惣、近日与州へ被致御供候ニ付、今晚為暇乞振舞申候、布施三説老、飯嶋五郎右、菅沼半之助方をも申請候、玉屋古齋をも九兵召連被申候、小笠原与左、海安、水見勝手者也、永庵、七右衛門呼候而少つ、まわ七申候、八時分ニ被參緩々と咄被申、夜ニ入四過ニ何も帰り被申候

一菅沼喜右病後始而今晩暮合ニ私宅江參、夜ニ入五時分ニ帰り被申候、黄流之茶入日頃ほめられ候由及承候ニ付、いっそ遣し可申と存候ニ付、今晚幸と存、右之茶入喜右方へ遣し候

同晦日

終日宿ニ有之、替事なし

十一月朔日 終日雨降

今朝如例礼衆ニ逢申、終日宿ニ有之、替事なし

同二日 晚方雨

今朝東しらミニ坂田へ致參詣、夫々直ニ岩手江致伺公候、

頃別而寒候ニ付、御機嫌奉窺候処ニ、則致御目見御かゆ御酒など被下、過分忝仕合ニ而、七前ニ帰宿仕候

同三日

大殿様今晚岩手へ御帰館被遊候、御帰之前ニ江戸へ御鷹之鶴如例奉書相添、郷次之御飛脚ニ而參着被為入候と、則御頂戴被遊、其感もなき御大悦之御事也、拙者儀御着前へ御新宅へ罷出、右御鷹之鶴參着之刻、帯刀、拙者御玄関の下迄罷出、右御鷹之鶴御座敷へ入申、御着以後御祝儀申上御

のし頂戴仕、日暮六半前ニ帰宿仕候、主税助をも召連罷出、首尾能御目見致させ候

同四日

昨日御拝領被遊候御鷹之鶴、今日御披キ御頂戴可被遊候間、昼時分ニ何も御新宅へ罷出候様ニと、市十、平次右方分被申間候ニ付、何も昼時分ニ罷上候、拙者儀ハ同性権五郎、主税助をも召連罷出候様ニとの御意ニ而、今朝四時分ニ罷上過分忝仕合也

一 昼時分ニ大殿様表へ出御被遊、何も罷出候衆致御目見候、扱御座之間へ被為入、左京様と御一所ニ右御鷹之鶴御頂戴被遊候、其以後拙者共御次之御座布ニ而奉頂戴候、扱御圍ニ而御茶左京様と被召上候、其節も拙者共被召出、御茶之口流致頂戴過分忝仕合とも也

一 其以後又御盃台出役者ともニ御意わセ被為成候、其内拙者共ニも御酒被下、七時分ニ何も退出仕候、拙者儀御新宅分直ニ宇治屋敷へ參、破損之普請申付、日の入相ニ帰宿仕候

同五日

昼時分分雨降

左京様今朝四前ニ当地御出船被遊、予州へ被成御座候、先五時分ニ御新宅へ御出被成大殿様へ御暇乞被遊候、御盃出

御盃左京様へ被進之候、其御中拙者ニ被下候様ニと大殿様御意被成候ニ付而色々辞退仕候へ共、立而御定御座候ニ付而御盃頂戴致候処ニ、左京様御取上被成被召上、其御盃大殿様御納被為成候、過分身ニあまり申なる仕合也

一 扱御立被為成候節、大殿様御召被成御座候呉服ぬかせられ、御直ニ左京様へ被進之候、御頂戴被成其御小袖被為召、又御前へ御出御礼被仰上候、其節も拙者罷出御あいさつ申上候

一 扱左京様御立被為成候ニ付而、為御見送りと御舟場迄御先へ參、左京様致御目見、扱御出船ヲ奉見、夫分御新宅へ致伺公御悦申上候、大殿様ニハ御下屋敷へ被為成御座、左京様御出舟之御様子御覽被遊候ニ付而、拙者式何も御酒被下候様ニとの御意ニ而何も御酒被下、八過ニ帰宿仕候、拙者儀今朝五前ニ西之御丸へ罷出、左京様へ致御目見、夫分御新宅へ罷出、右之通相勤大御酒被下給酔帰宿仕候

同六日

今朝四前ニ主税助召連罷出候処ニ、今日ハ不取敢御能被仰付候間、致見物候様ニ権五郎をもよびよせ見物いたさせ候

様ニと被仰出候、追付致御目見良しハらく御前ニ罷有、右御礼をも申上候、其以後了念、快遊、三説も罷出候

一御能ハ、高砂、田村、祝言、三番被仰付候、右何も喜大夫仕候、御能相濟御料理被下、七時分ニ退出仕候

一今日ハ昨日ノ天キ能御座候へ共、少風つよく御座候故、左京様今日もかしハ浦ニ御逗留被遊候由

同七日

今朝四過ニ主税助召連罷出候処ニ、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、昼過ニ御新宅ノ直ニ宇治屋布へ參候、茶屋破損大形出来申候ニ付、今晚ハ茶やニ而食給、暮合ニ帰宿仕候

一今日ハ日和能御座候而、左京様今朝友ヶ嶋御出船被遊候由

同八日

今朝四過ニ罷出候、尤何之御用も無御座御機嫌為奉伺、又左京様昨晚一ノ谷迄御渡海被遊候由申来候、御祝儀為可申上迄ニ御座候、拙者式罷上り候段達御耳、御前へも可被召出と被為思召候へハ、結局如何と奉存、市十、平次右ニ右之段申候而、昼過ニ帰宿仕候

一今晚堀田孫之丞方へ茶ノ湯ニ參候、海安、水見相客也、八

時分ニ參、日ノ入前ニ帰宿仕候

同九日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、追付致御目見しバラく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一左京様昨日一ノ谷御出船被遊候処ニ、西風つよく候故、兵庫へ御船被為人候由申来候

同十日

今朝四過ニ主税助召連罷出候処ニ、追付致御目見しバラく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一今晚真鍋五郎右所へ振廻ニ參候、与左、海安相客也、水見、左平太も被參候、源藏勝手者也、八過ニ參、夜ニ入四過ニ

帰宿

同十一日 冬至

妹背山御座門御破損出来、二三日以前ニ御法事も有之、御代參も御座候由、後ニ承候ニ付而、今朝五時分ニ罷出妹背山へ致參詣候、夫ノ御新宅へ罷出候処ニ、則致御目見しバラく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候、妹背山ノ罷帰候節、菅沼喜右衛門所へ立寄、夫ノ御新宅へ罷出右之通也

同十二日

今晚雲蓋院へ当年之口切之茶進之候ニ付、今日ハ御新宅へ  
不罷出候、雲蓋院八時分ニ御出、夜ニ入五時分ニ御帰候、  
布施三説老、飯嶋五郎右被參候、利生坊もよび申候、居間  
へも御通り舞なとまわセ、緩々と御咄候也

一左京様去十日備前之牛まとへ御着船の由、申來候

同十三日

今朝四時分ニ主税助召連罷出候処ニ、頓而致御目見しバラ  
く御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一今晚鴨居善吉、千宗佐、同宗波よび申候、但宗佐ニ少も

早ク跡次を見せ悪布所なをし度存、又ハ江戸以來見せ申度  
道具有之ニ付、旁ニ今晚よび申候、何も八時分ニ被參緩々  
と語り、夜ニ入四過ニ帰り被申候、海安、梅溪も後ニ被參  
咄被申候

同十四日

今朝四時分ニ御新宅へ罷出候処ニ、頓而致御目見しバラく  
御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一左京様去十一日備後之友へ御着船、日和次第明八時分ニ西  
条へ御着船可被成との儀、今朝申來、大殿様御機嫌之御事  
也

一今朝帯刀方今当年之壺之茶の由ニ而引茶一種、但ば、茶并  
肴一種給候

一左京様去十二日之朝西条へ御着船之由ニ而、稻生加兵衛十  
二日之暮合ニ西条致出船、鯨舟ニ而今暮合ニ參着、右之通  
申上候処ニ、大殿様御太悦之御事也、就夫為御祝儀夜ニ入  
六半時分ニ御新宅へ罷出御悦申上、追付帰宿仕候

同十五日 夜明時分少雨

今朝四前ニ権五郎、主税助召連罷出候処ニ、頓而御のんき  
ニ御出被成候ニ付、則致御目見候処ニ、はやく罷出候、今  
日ハ不取敢御能被仰付候間、幸悴ともニも見物致させ候様  
ニと忝御意ニ而仕合殘所無御座候

一頓而入御被遊罷出候衆、其節致御目見候、扱御能初り申候、  
老松、しやうき、祝言、三番被仰付候、何も喜大夫仕候  
一御能相濟候而御鷹之鴨之御料理御酒頂戴仕、八前ニ帰宿仕  
候

一一条大納言様右大将ニ被為任之由、京都分申來候  
一今晚正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、菅沼喜右衛門、李  
梅溪、鶴飼海安、三岡水見ニ当口切之茶振舞申候、但数奇  
屋ニ而何も夜ニ入、四過ニ帰り被申候

同十六日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、追廻しへ被為成御馬御覽被遊候、入御之節首尾能致御目見直ニ御座之間へ被召連、良しばかり御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

同十七日

大殿様御機嫌ハ能被成御座候へとも、先日頃之御風氣故未御行水不被遊候ニ付而、今朝和歌へ之御參詣御延引被為成爲御名代原田市十良御上ケ被為成候、右御代參相濟候をかんがへ候而、拙者儀今朝五時分ニ宿罷出、和歌へ伺公いたし候

一先雲蓋院拙者ニ給候大師御自筆之御名号所持仕候へとも、私宅ニ奉納候儀憚入奉存候ニ付而、内々雲蓋院へ申談、今朝和歌へ奉守雲蓋院へ相渡し申候、但御宮江奉納候との儀ニてハ無御座候、雲蓋院へ進之申候、則雲蓋院御請取御納候ニ付而、本望至極ニ奉存候旨申候而罷帰候

一和歌分直ニ御新宅へ罷出、御機嫌奉伺、昼前ニ帰宿仕候

同十八日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、御延氣ニ御出被成候節にて、則致御目見しばかり御前ニ罷有候

一從光君様被進之候郁子ウツコと申物、むべとも申候由、毎年江州奥嶋郡分霜月朔日ニ禁中へ上り申候物の由致拜見、扱出御以後、昼前ニ帰宿仕候

一今晚堀田孫之丞方振廻申候、水見、海安相客也、茶過候而孫殿ハ早速歸り被申候、水見、海安ハゆるくと咄、夜ニ入四過ニ歸り被申候

同十九日

大殿様今夜中少御虫氣ニ被為成御座候由、今早天ニ成田八大方分被申聞候ニ付而、早速御新宅へ罷出御機嫌奉伺、五半時分ニ帰宿仕候、権五郎、主税助も罷上り候

一支度いたし、又四半時分ニ罷出、八時分ニ帰宿仕候

一又々哉、今晚暮合ニ罷上り御機嫌奉伺、夜ニ入五過ニ帰宿仕候、今朝も御機嫌能、御かゆ同前之御食、晩方分兩度ニ五六匁ほど被召上御味噌汁も少上り申候由、御脈も今朝分ハ弥能被成御座之由、医者衆申候

同廿日

今早天ニ御用達中迄御機嫌為何以使者申候処ニ、夜中御機嫌能一兩度御かゆをも被召上候由、長坂小右方分被申聞候一今朝五前ニ権五郎、主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御

機嫌弥能御脈も能被成御座候由、医者衆被申候を承、四過

ニ帰宿仕候

一八時分ニ御用達中迄御機嫌為伺以使者申候処ニ、御機嫌弥

能御かゆをも被召上候由、成田八太方が被申聞候

一暮合ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能御脈

も能被成御座、今日ハ御食御かゆなとも、昨日がハ多ク

被召上候由承、五過ニ帰宿仕候、今日之御食事取合三十め

余も可有之哉の由

同廿一日

今早天ニ御用達中迄御機嫌為伺以使者申候処ニ、夜中御機

嫌能御かゆなとも被召上候由、落合九十方が被申聞候

一右御様子承、五前ニ宿罷出養珠寺へ致参詣、夫が妹背山へ

も参詣仕直ニ御新宅へ罷出候、其節快遊気色見廻、夫が喜

右衛門所へも立寄申候

一権五郎、主税助も御新宅へ罷出候

一暮合ニ又主税助召連、御新宅へ罷出御機嫌奉伺、五過ニ帰

宿仕候

一今日之御食事取合四十め余も可有之哉の由

一夜半前ニ御用達中迄御機嫌為伺以使者申候処ニ、御機嫌弥

能御膳をも被召上候由、成田八太方が被申聞候

同廿二日

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機

嫌弥能被為成御座候由、成田八太方が被申聞候

一今朝五時分ニ権五郎、主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、

夜中御機嫌弥能被為成御座、殊とくと御しづまり被為成、

夜中ハ医者衆をも不被召出之由、今朝尚以御機嫌能被為成

御座候由承、昼前ニ帰宿仕候

一八過ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能

被為成御座、御脈も昨日が猶以能御座候由、医者衆申之由、

落合九十方が被申聞候

一暮合ニ又主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、今日ハ御機嫌

弥能御脈も尚以能被成御座候由

一御機嫌能被成御座候間、年罷寄候者病者などハ早々罷帰候

様ニと被仰出、拙者式も五前ニ帰宿仕候

一今日之御食事大形、昨日御同前の由

一夜半前ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥

能被為成御座、御脈も能御座候由、医者衆申之由、長坂小

右方が被申聞候

同廿三日 時々雪、少おそく迄降

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能為成御座、暁方御かゆをも被召上候由、御脈も能御座候旨医者衆申之由、長坂小右方被申聞候

一 今暁菅沼喜右衛門女共平産ニ付、喜右衛門所へ見廻、朝五

過ニ御新宅へ権五郎、主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、

御機嫌弥能為成御座、御脈尚以能成御座候由承、四過

ニ帰宿仕候

一 今八過ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ御機嫌能為成御座之旨、成田八大方被申聞候

一 暮合ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能為成御座、御脈も尚以能成御座候由承、五時分ニ帰宿仕候

一 今日之御食事、大形昨日御同事の由

一 夜半前ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能為成御座候由、高田喜八郎方被申聞候

同廿四日

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能為成御座候由、高田喜八郎方被申聞候

一 今朝五過ニ権五郎、主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御

機嫌弥能為成御座、御脈も尚以能成御座候由、いかにも次第能打つ、き御機嫌と、御脈と致相応能御座候由、医者衆被申候を承、四時分ニ退出仕候

一 御新宅直ニ菅沼喜右衛門所へ見廻申候、弥母子共ニ息災ニ候故、昼時分ニ帰宿仕候

一 今八時分ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能為成御座之旨、落合九十方被申聞候

一 暮合ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能為成御座、御脈も打つ、き能成御座之由、医者衆申之由

一 御機嫌能為成御座候間、何も御機嫌伺ニ罷出候者とも最早致無用候様ニと、市十郎、平次右衛門を以被仰出候

一 其以後拙者斗御前へ被召出致御目見候処ニ、御機嫌能成御座之旨被仰聞候、併未御声もにござせられ候、去十八日以後今晩始而致御目見候、乍恐いか斗奉案候処ニ、目出度御儀ニ奉存之旨申上、五過ニ退出仕候

一 夜半前ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能為成御座之旨、落合九十方被申聞候

同廿五日

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機



嫌能被為成御座之旨、落合九十方被申聞候

一 今朝五過ニ權五郎、主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御

機嫌弥能、御脈も打つ、き能被成御座之旨承、四過ニ退出  
仕候

一 御新宅今直ニ菅沼喜右衛門所へ見廻、昼過ニ帰宿仕候

一 八時分ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥  
能被為成御座之旨、高田喜八郎方被申聞候

一 暮合ニ主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、尚以御機嫌能被

為成御座、御脈も弥能御座候由承、五時分ニ帰宿仕候

一 夜半過ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥  
能被為成御座之旨、成田八太方被申聞候

同廿六日

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機

嫌能被為成御座候由、成田八太方被申聞候

一 今朝五過ニ權五郎、主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御

機嫌弥能被為成御座、御脈も打つ、き能御座候由承、四過  
ニ帰宿仕候

一 御新宅今直ニ喜右衛門所へ見廻、昼過ニ帰宿仕候

一 暮合ニ主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能御脈

猶以能御座候由承、五前ニ帰宿仕候

同廿七日 夜ニ入雨

今朝五過ニ權五郎、主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御  
機嫌弥能被為成御座、御脈も打つ、き能御座候由承、四過  
ニ帰宿仕候

一 御新宅今直ニ喜右衛門所へ見廻、昼時分ニ帰宿仕候

一 暮合ニ主稅助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、今朝之通御機嫌  
能御脈も尚以能御座候由承、五前ニ帰宿仕候

一 御機嫌能被為成御座候ニ付而、昨昼御用達中迄御機嫌伺

申候儀延引仕候  
同廿八日

同廿八日

今朝五過ニ權五郎、主稅助召連罷出、今日之御祝儀御機嫌

奉伺候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈尚以能御座候由

承、四時分ニ帰宿仕候

一 御新宅今直ニ喜右衛門所へ見廻、昼前ニ帰宿仕候

一 最早今晚御機嫌為伺ハ罷上間布由、帯刀其外何もと申合  
今晚不罷出候、就夫日暮候而御用達中迄以使者御機嫌伺

申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈も打つ、き能被成

御座候由、医者衆申之旨、長坂小右方被申聞候

同廿九日 昼時分る雨

今朝五時分ニ罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能御脈も高以能被成御座候由承、夫ハ喜右衛門所へ七夜之祝振廻ニ参候、布施三説老、飯嶋五郎右殿相客也、正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、真鍋五郎右衛門、鵜飼海安被参候、久米武兵、玉川伊右、菅沼半之助方勝手者也、緩々と祝、八前ニ帰宿仕候、権五郎、主税助ハ今朝直ニ喜右所へ参、一度ニ帰り申候

一暮合ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能御脈も打つ、き能、御膳も被召上候由、高田喜八郎方被申聞候

十二月朔日 朝少雨

今朝五過ニ権五郎、主税助召連罷出御祝儀御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈も尚以能御座候由承、四時分ニ帰宿仕候、今日ハ喜右衛門所へ最早見廻不申候

一晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈も打つ、き能、御膳も被召上候由、落合九十方被申聞候

同二日 あられ、雪も少つ、降

今早天ニ坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候

一支度いたし四時分ニ罷出候処ニ、頓而御前へ被召出致御目見候、御気色次第ニ能被成御座候間、心安可奉存候、併御膳御す、ミ不被成候由御意被為成候、先日ハも御や七被為成、御声も未にこらせられ候、頓而御出可被為成ほと御意ニ而、追付御前致退出、昼前ニ帰宿仕候

一今日ハ殊外寒、雪もふり申候、就夫弥御機嫌為伺晩方御用達中迄以使者申候処ニ、殊外寒候へとも御機嫌能被為成御座、御膳も被召上、御脈も弥能御座候由、医者衆申之旨、長坂小右方被申聞候

同三日 雪少つ、降、夜ニ入雪つもる

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候由、落合九十方被申聞候、右ハ夜中殊外寒、雪もふり申候ニ付而也

一今朝四時分ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌能被為成御座、御脈も能御座候由承、昼前ニ退出、夫ハ喜右衛門所へ見廻、昼過ニ帰宿仕候

一晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌能被為

成御座、御脈も能御座候由、医者衆申之由、御膳も被召上候旨、落合九十方被申聞候

同四日 五過迄も少つ、雪降

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、殊外寒、夜中雪ふり申候へ共、御機嫌弥能被為成御座候旨、長坂小右方被申聞候、夜中今今朝迄雪ふり、大形二寸ほとつもり候

一四時分ニ権五郎、主税助召連罷出御機嫌伺申候処ニ、御機嫌弥能、御脈打つ、き能御座候由承候ニ付、可致退出と存候処ニ、御前へ被召出致御目見候、御がんしよくも弥能被為見へ候、御気色次第ニ能被成御座候由御意被為成候、然共御食不被為進候由、御意ニ御座候而しはらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一権五郎、主税助をハ先様退出致させ、菅沼喜右衛門所へみまわセ申候

一晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈尚以能御座候由、医者衆申之由、御膳も被召上候由、長坂小右方被申聞候

同五日 夜ニ入少雨

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候由、長坂小右方被申聞候

一今朝四前ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈も能御座候由承、昼前ニ帰宿仕候

一今晚宗佐よび候而語り申、権五郎、主税助ニ始而茶を立習らセ申候、与左衛門、海安もよび候而語り申候、宗左ハあかるき内ニよび候而、路次をも見せあんどんたんけいなとの置様承候、与左、海安ハ夜ニ入被參、夜半時分ニ何も帰り被申候

一晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ御機嫌打つ、き能、御脈能御膳も被召上候由、落合九十方被申聞候

同六日

今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候由、落合九十方被申聞候

一今朝四前ニ左京大夫様子州被御着船ニ付、拙者儀みなと御舟付場迄御迎ニ罷出候能時分ニ罷出、御懇ニ被為成御意忝仕合ニ而、御先へ參候様ニとの御意ニ付、則御新宅へ罷出、左京様御機嫌能御着船之旨大殿様へ申上、直ニ御新宅ニ罷有候、権五郎、主税助をも御新宅へよび寄せ申候、是又能

時分ニ罷出、左京様被為入候時分、首尾能致御目見忝仕合也

一 左京様御新宅へ被為入、追付御対面被遊候、其節御前へ被召出御悦申上候、帯刀、松之助などハ其少前ニ御新宅へ罷出候

一 昼過ニ左京様御新宅御出被為成西之御丸へ被為入候、其御跡ニ西之御丸へ致伺公祝儀申上罷戻り候節、昔沼九兵衛所へ立寄、九半時分ニ帰宿仕候

一 左京様御勇健ニ御着被為成候、為御祝儀大殿様左京様へ御看指上ケ申候

一 晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御膳も被召上候由、長坂小右方被申聞候

同七日

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候由、落合九十方被申聞候

一 今朝四前ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、昨日今別而御脈能御平脈御同前之由、医者衆申之由、尚以御機嫌能被為成御座之旨承、左京様御前ニもしはらく罷有、昼過ニ御新宅直ニ宇治屋布へ參、桜之木うへ替させ、日ノ入相ニ

帰宿仕候

一 晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御膳も被召上候由、落合九十方被申聞候

同八日

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候旨、落合九十方被申聞候

一 今朝四時分ニ罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御脈打つ、き能、御膳も昨日今お、めニ被召上候由承、昼前ニ帰宿仕候

一 晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御膳も被召上候由、長坂小右方被申聞候

一 今暮合今権五郎部やへ宗左よび候而、兩人ニけいこ致させ候、海安、水見も被參語り被申候

一 一夜ニ入左京様御用之儀御座候由、市十、平次右方被申越、六半時分ニ罷出、五時分ニ帰宿仕候、宗左など夜半時分ニ帰り被申候

同九日

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能被為成御座候由、長坂小右方被申聞候

一 今朝五過ニ主税助召連罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌能成御座之旨、然共夜前ハ少御どうきの御心御座候由、併御脈ハ別而能御座候由承、昼前ニ帰宿仕候

一 晩方御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、御機嫌弥能成御座、御膳も被召上候由、中川清三方被申聞候

同十日 四時分迄少つ、雪降

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能成御座候由、長坂小右方被申聞候

一 今朝四前ニ罷出候処ニ、頓而左京様御対面之節被召連致御目見候処ニ、御機嫌ハ能成御座候へ共、御食事す、ませられざるの由被仰聞、良庵御脈伺候内シバラく御前ニ罷有、其以後左京様御前ニも良シバラく罷有、昼過ニ退出仕、夫々昔召喜右衛門所へ見廻、八前ニ帰宿仕候

一 一昨日ハ御食事六十め余程被召上候、昨日ハ三十七八匁ほど被召上候、今日ハ昼之内ニ早大かた昨日之ほど被召上候間、夜中ニ又少被召上候ハ、昨日之のハ御食事も能可有御座之由

一 今晩ハ別而寒申候ニ付、日暮候而罷出御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌能御脈も弥被為和候由、左京様御前ニも良シハラく

罷有、医者衆ニ御気色之御様子など御尋被成候、御あいさつなど申上、五前ニ帰宿仕候

同十一日

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能成御座候由、落合九十方被申聞候

一 今朝五過ニ主税助召連罷出、則左京様致御目見候処ニ、御機嫌能成御座之旨被仰聞候、扱四過ニ致御目見候、御脈も弥能成御座候由、良庵申候、御食事も今朝十匁、昼時分ニ廿目被召上候を承、昼過ニ帰宿仕候、晩方御食事十五匁被召上候由、左候へハ昨日之の多ク被召上候

一 暮合ニ罷出、則左京様致御目見候処ニ、御機嫌弥能成御座之旨、被仰聞候頃ハ勝御脈能御座候、其外御機嫌能御座候間、御食事も次第ニ可成進と、医者衆申候を承、五前ニ帰宿仕候

同十二日 八時分雨

一 今早天ニ御機嫌為伺御用達中迄以使者申候処ニ、夜中御機嫌能成御座之旨、長坂小右方被申聞候

一 今朝五過ニ罷出、則左京様致御目見候処ニ、御機嫌弥能成御座之旨被仰聞候

一左京様今度予州の御戻り被成、和歌へ御参詣不被遊候ニ付而、今四過ニ和歌へ御参詣被遊候

一其以後良庵御前へ罷出候節、拙者も罷出致御目見候処ニ、御機嫌能被成御座候間、心安可奉存之旨、併御食事不被為進候由被仰聞候、御脈之内シバラく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一御機嫌次第ニ御快然之御事ニ御座候へ共、弥早ク透と御本復被遊候様ニと、日前宮国造へ御祈祷頼入、今晚御被御洗米水野小右方迄指上申候

一暮合ニ罷出、則左京様致御目見候、今日久々ニ而御大湯御通し被為成候、夫故か少御虫之御痛御座候へ共、早速被為和御脈も能御座候由承、五前ニ帰宿仕候

一今日之御食事ハ昨日之の如くなく被召上候由

同十三日

一大殿様今晚御さむけ御座候而、其以後少御熱出申候由、今早天ニ長坂小右方夕被申聞候ニ付而、則罷出左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、被為懸御言葉候頃御草臥被為成候御様林ニ御座候

一今朝御食事五匁、八時分三十一匁、夜ニ入五匁ニ又十一匁

被召上候、晚方御水瀉御座候

一今晚夜ニ入、寿安薬ニ御替被成、御服用被遊候、拙者儀今早天ニ罷出、昼前ニ帰宿仕候処ニ、八過ニ左京様被為召候ニ付而罷出、夜ニ入四過ニ帰宿仕候

同十四日 夜明の雨、終日時々小雨

今早天ニ罷出、則左京様致御目見候、其以後医者衆罷出候節致御目見候処ニ、兩度迄被為懸御言葉候

一昨晚寿安調合之御薬被召上能被為思召候由、昨夜御意之由今朝之御脈昨晚の能被成御座候由、其以後寿安御薬調合いたし指上ケ申候

一今朝ハ御食事十匁被召上候、拙者儀昼前ニ帰宿仕候

一今晚七過ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、兩度迄被為懸御言葉、御脈能御座候由、医者衆申之旨被為仰聞候

一今晚之御脈今朝も能御座候由、医者衆申候、其以後又寿安御脈伺申候処ニ、尚以御脈能御様林も能被成御座候由、寿安申候而御薬調合仕候

一今昼過之御食事十三匁余程、夜ニ入又少被召上候、拙者儀五過ニ帰宿仕候

同十五日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後御前へ罷出候処ニ、御脈能御座候由医者衆申候旨被為仰聞候、御気色能被為成御座候故、四前ニ帰宿仕候

一七半時分ニ罷出、則左京様致御目見候、其以後医者衆御前へ罷出候節、御脈伺申候様子承候処ニ、今朝今も尚以御脈能御座候由申候、今日之御食事廿七匁程の由

一今晚京都今人見道伯參着被申候、明日被罷出筈、御機嫌能被成御座候故、五過ニ帰宿仕候

同十六日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後御前へ罷出致御目見候、御気色能御脈能御座候由承、御新宅今直ニ道伯へ見廻、四前ニ帰宿仕候

一昼時分ニ道伯御新宅へ被罷出候ニ付、其前ニ又罷出道伯としバラく語り申候

一今晚和歌御宮正遷宮ニ付、大殿様御代參拙者被仰付候、殿様御代參平右衛門相勤申候、就夫道伯御前へ不罷出前、八時分ニ致帰宿支度仕、七過ニ宿罷出和歌へ參、大紋着シ暮合ニ御山へ罷上り候、御遷宮ハ西ノ下刻相濟、其以後兩人

御代參相勤申候、其以後左京様御拜被遊候

一夫云蓋院へ參、裝束ぬき、上下着シ、御新宅へ致伺公候節、路次ニ而火事の様子見付、早々御新宅へ致伺公左京様御前へ御出之節、拙者も罷出御代參相勤申候段申上候

一今日之御食事三十日余程被召上候由

一右火事火本ハ佐竹源大夫ニ而已上侍屋敷五間焼失仕候、御新宅へハ風能御座候、御城内へハ少風悪布候故、左京様ニも則西之御丸へ御帰被為成候、拙者も御跡ニ付罷帰候、其節一之橋ニ渋谷角右衛門、川合勘左衛門、豊嶋半之丞、小泉李兵衛居被申候ニ付、逢候てしバラく語り、先宿所へはいり上下ぬき、立付ニ而又一之橋へ罷出、右之衆と語り申候、其内最早火もしづまり候故、重而ハ不罷出候

同十七日

今早天ニ罷出御機嫌奉伺候処ニ、今日ハ別而御機嫌能御脈も能成御座候由承候、寿安も始而御脈能御座候由申候而、一入悦申躰ニ而候、左京様致御目見和歌へ御先へ參候由申上、五時分ニ和歌へ參、左京様御參詣を相待、雲蓋院ニ罷有候

一左京様四前ニ和歌へ被成御座、御ひた、れニ而大殿様御名

代御勤被為成候、殿様御代參平右衛門相勤申候、其以後左京様御自分之御拝被遊候、拙者儀ハ今朝和歌へ左京様被成御座候時分致伺公候様ニと迄被仰付候へ共、左京様御ひた、れニ而御座候間、拙者も大紋着シ可申と存致持參候へ共、御代參相勤申儀ニ而ハ無御座候ニ、大紋着シ候儀結局如何と常之ことクニ上下ニ而罷上り、右御拝相濟候以後奉拜、

左京様御跡ニ付御新宅へ罷出候

一 道伯昼時分ニ被罷出御脈伺被申候処ニ、両御脈ともニそろい一段能御座候由被申上候、其節も御前へ罷出御あいさつ申候而、七前ニ帰宿仕候

一 又日暮候而罷出、頓而医者衆御前へ出候節拙者も罷出、五

過ニ帰宿仕候

一 今日中之御食事廿七八匁ほど被召上候由

一天竺之米寿安指上ケ申候ニ付、食ニ致給見候様ニとの儀ニ而、今晚たいとう米と二色給見申候

同十八日

今早天ニ罷出候処ニはや医者衆御前へ罷出候ニ付、則御前へ罷出致御目見候処ニ被為懸御言葉候、御機嫌能被成御座御脈打つ、き能被成御座候由、医者衆申候

一 此已前御病後ニ鮒ヲ被召上御食付被遊候由、就夫左京様近江ノ鮒御取寄せ、今朝御前へ御持參被遊御上り被成候処ニ、御機嫌之御事ニ而御料理申付候様ニと被仰付候、其以後拙者儀先帰宿仕候

一 今昼前ニ道伯被罷出候ニ付、四過ニ罷出御脈之節御前へ罷出、其以後道伯と語り、八過ニ帰宿仕候

一 右之鮒今昼之御膳ニ少被召上候、鳥をも少被召上候、御病中始而今朝右之通魚鳥被召上候、今日之御食事日中兩度ニ廿目余程被召上候

一 今明日之内道伯勝手次第私宅へ可申請由、今朝使者指越直ニも申候へ共、立而先相延候様ニと被申候故伺其意候

一 暮合又罷出、医者衆御前へ罷出候節御前へ罷出候、今晚之御脈一入勝能御座候由、医者衆申候を承、五前ニ帰宿仕候、最早御気色能被成御座候間、御機嫌伺ニ罷出候者共致無用ニ候様ニと御意之旨、市十郎、平次右衛門何もニ申渡候

同十九日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見医者衆御前へ罷出候節致御目見候、御機嫌亦能被為成御座、御脈尚以能被成御座候由承、五時分ニ帰宿仕候



一四過ニ道伯被罷出候ニ付而、又罷出良しはらく道伯と語り、其以後御前へも致同道罷出候、被為懸御言葉御機嫌一入罷御見へ被為成候、御脈弥能御座候由、道伯も被申帰り被申候、其以後昼過ニ帰宿仕候

一今日も道伯、寿安儀殊外ほめ被申候

一暮合ニ罷出、則左京様致御目見、今晚之御膳被召上候、御様躰承、五前ニ帰宿仕候

一今日之御食事、今朝夕夜ニ入候迄三十一匁余被召上候、魚鳥も少つ、被召上候

同廿日

一早天ニ罷出、則左京様致御目見、追付医者衆罷出候節致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御脈も能被為成御座之旨  
医者衆申候

一左京様御新宅御出和歌へ被為成御座候、少御先へ参、左京様御参詣ヲ相待致御目見、其御跡ニ奉拝候、左京様ハ直ニ御新宅へ御出被為成候、拙者儀吹上下屋布へ立寄、上下着かへ御新宅へ罷出候処ニ、道伯被罷出候ニ付しばらく語り、其以後御前へ道伯被出候節致同道罷出、今朝道伯へ以御使者御袖ほそ被遣候御礼をも拙者申上、昼時分ニ帰宿仕候

一今朝和歌へ為御代参松平九郎左衛門御上ケ被成候、是ハ早天ニ相勤罷帰候

一又暮合ニ罷出、則左京様致御目見、追付医者衆御前へ罷出候節、拙者も罷出候

一今晚方少御虫被為痛、少御さむけ、少御ねつも御座候由、就夫御脈ニ御かさも御座候由、併いかにもかろき御事ニ御座候間、明日ハ右之御様躰透と能可被為御座との儀ニ御座候、先日之御様躰之半分程之儀ニ御座候ハんやと友菊などハ申候

一今日中之御食両度ニ十六匁ほど被召上候、右之御様子故御食事も今日ハすくなく御座候哉との儀、右御様躰承、五過ニ帰宿仕候

同廿一日

一早天ニ罷出候処ニはや医者中御前へ罷出候ニ付、則罷出候、御脈昨日も能被成御座候由医者衆申候

一今朝養珠寺へ之御代参加納平次右衛門相勤申候、其以後左京様御参詣被遊候御跡ニ、御新宅ハ直ニ少御ささへ参、左京様御参詣被遊候御跡ニ、養珠寺妹青山奉拝御跡ニ付、直ニ御新宅へ罷出候

一道伯はや被罷出候ニ付、良しバラく語り、其以後道伯御前へ被罷出候節致同道罷出御あいさつ申、扱道伯退出以後、

昼過ニ帰宿仕候

一又暮合ニ罷出候処ニ、御前へ医者衆罷出候時分ニ而則罷出候、御脈今朝も弥能御座候由医者衆申候

一今日之御食事、日暮候而迄已上廿四勿ほと被召上候、右之御様躰承、五前ニ帰宿仕候

同廿二日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、今朝ハ別而御機嫌能被為懸御言葉候、御脈も一段と能被成御座候由、医者衆申候を承、五前ニ帰宿仕候

一又四時分ニ罷出道伯被出候ニ付而語り申候、頓而道伯被罷出候ニ付、致同道罷出御あいさつ申上候、御脈一段と能御座候由道伯も被申候、扱道伯退出以後、昼前ニ帰宿仕候

一又暮合ニ罷出、則左京様致御目見、追付医者衆御前へ罷出候ニ付致御目見候処ニ、弥御機嫌能被為懸御言葉候、御脈尚以能御座候とて、医者衆も悦申候

一今日之御食事夜ニ入候迄三度ニ廿六勿余被召上候、右之段

承、五前ニ帰宿仕候

同廿三日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、御脈一段と能御座候由、医者衆申候を承、五過ニ帰宿仕候

一又四過ニ罷出、道伯被出候ニ付而しバラく語り、道伯御前へ被罷出候節致同道罷出御あいさつ申上、今朝道伯へ以使者御着被遣候御礼をも拙者申上候、扱道伯退出以後、昼時分ニ直ニ宇治屋敷へ参、其戻リニ帯刀所へ見廻、八時分ニ帰宿仕候

一暮合ニ又罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被成御座之旨被仰聞候、御脈尚以能被為成御座之由、医者衆申候

一今日之御食事夜ニ入候迄三度ニ廿七勿被召上候  
一権五郎具足出来、今朝具足や持参申候

一先日正木五郎右衛門茶をくれ候ニ付、今晚夜ニ入御新宅へ罷歸候以後権五郎部屋ニ而披キ給候

同廿四日 夜ニ入小雨

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷

出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、御脈亦能被成御座候由、医者衆申候

一五過ニ左京様大知寺、報恩寺へ御參詣被遊候ニ付、右御両寺へ致參詣直ニ又御新宅へ罷出候、道伯被召出候ニ付しハらく語り、其以後御前へ被出候節致同道罷出御あいさつ申上候、御脈一段と能御座候由道伯被申候、扱道伯退出以後、昼時分ニ帰宿仕候

一暮合ニ又罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、弥御機嫌能被為懸御言葉候、しバらく御咄之御あいさつ申上候、今晚之御脈尚以能御座候由、医者衆申候

一今日之御食事日之内三度ニ三十め余被召上候、頃之能御食事ニ而何も奉恐悦候、拙者儀五過ニ帰宿仕候

同廿五日 夜ニ入小雨

今早天ニ罷出左京様致御目見、其以後医者衆罷出候節致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御脈弥能御座候由、医者衆申候

一長福様来年ハ御七つニ被為成候ニ付而、御さかやき可被遊由、就夫大殿様之御もとゆい御はさみ御望ニ被為思召之由、

從殿様伊達了念方へ被仰越候ニ付而、其段達御耳御機嫌之御事ニ而、今朝御直ニ了念ニ御渡シ被為成候、其節も拙者儀被召出御あいさつ申上候

一五時分ニ直ニ吹上下屋敷へ參、上下着シ蓮心寺へ致參詣、五過ニ帰宿仕候

一四時分ニ又罷出候処ニ、追付道伯被罷出あいさついたし候、扱御前へ道伯致同道罷出御あいさつ申上候、御脈尚以能御座候由道伯被申候而退出以後、昼前ニ帰宿仕候

一暮合ニ又罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆罷出候節致御目見候処ニ、御脈も能御座候由医者衆申候由被仰聞、御機嫌弥能被為成御座候

一今日之御食事昼之内兩度ニ廿め被召上候、是ハ昼能御しんならせられ候ニ付而、二度め之御食事おそく被召上候ニ付而也、拙者儀五過ニ帰宿仕候

同廿六日

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、御脈一段と能被成御座候由医者衆申候、扱殿様之御使者衆、大沢善之丞、丹輪新兵衛、布施佐五右衛門御前へ被召出候、其御あ

いさつをも申上、五過ニ帰宿仕候

同廿七日

一四時分ニ又罷出候処ニ、追付道伯被出ししばらく語り、其以後御前へ道伯被罷出候節、同道いたし罷出御あいさつ申上候、今晚道伯私宅ニ而振廻申候ニ付、道伯おさきニ御新宅罷出、昼時分ニ帰宿仕候

今早天ニ罷出左京様致御目見、其以後医者衆御前へ罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、御脈弥能御座候由医者衆申候を承、五過ニ帰宿仕候

一道伯八時分ニ私宅へ被參候、了念、快遊、三説相客也、緩々と語り、日之入時分ニ帰り被申候、大振廻之内御機嫌弥能被為成御座之旨、加納十大夫お道伯へ状參、其以後寿安も具ニ御機嫌能段書状指越、御食事も四十日被召上候由申越、道伯不大形悦被申、則返状被致候、其文牒両方ともニ聞事也

一殿様お之御使者大沢善之丞、道伯直口可承とて道伯ニ逢具ニ御機嫌能被成御座候段道伯被申通、具ニ被申上候様ニと善之丞へ申達候、扱道伯退出以後、昼過ニ帰宿仕候

一拙者儀追付暮合ニ罷出候処ニ、左京様被為召候由、路次迄申来急罷出候処ニ、則御前へ被召連致御目見候処ニ、左京様来年御參府之御時分結構ニ被仰出候通申来、不大形御太悦之旨被仰聞御機嫌能被為成御座候、右御祝儀又今日ハ一入御食事も能被召上、目出度奉存之旨、しばらく御前ニ罷有申上候

一今晚ハ御年越ニ而御座候ニ付而、上下着シ日ノ入前ニ罷出右御祝儀申上御機嫌をも奉伺候、扱夜ニ入医者衆罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能被為懸御言葉候、今晚ハ御年越ニ而御座候間、何も祝候様ニとの御意也、御機嫌能被為成御座一入目出度御年越ニ而御座候旨申上、五前ニ帰宿仕候

一近日為上使水野与左衛門殿御越之由申来候ニ付而、何角と御用共も御座候而、五過ニ帰宿仕候

一今日之御食事日中三度ニ三十めほと被召上候、少御ひかへ被成候御様子也、御機嫌弥能被為成御座、御脈も尚以能被成御座候由

同廿八日 立春

今早天ニ罷出、則左京様致御目見、其以後医者衆罷出候節致御目見候処ニ、御機嫌能今日ハ立春ニて御座候との被為懸御言葉候、御脈も弥能御座候由医者衆申候ニ付而、一入目出度春之始ニ而御座候旨申上、五過ニ帰宿仕候

一 追付為御使水野小右衛門方被成下候、目出度御意被成下候ニ付而、則熨斗を出し祝、扱小右方へ申候ハ内々め申談候、来年賀之御祝ニ而御座候間、如先年目出度御懸物指上ケ申度存罷有候、内々来春指上ケ可申と奉存候へ共、今日ハ立春ニ而別而目出度御使被成下候間、則貴殿頼入、今日指上候而如何可有御座候やと申候へハ一段尤之儀ニ御座候、今日幸目出度御使ニ参候間、請取参指上ケ可申由被申候ニ付而、則右御懸物取出し懸候而小右方ニ見せ申、則鈴木善兵衛ニ持せ小右方ニ付候而指上ケ申候処ニ、則指上ケ申候御意之段ハ後刻直ニ可申間由被申越候

一 扱追付右御使之御礼旁ニ罷上り、小右方へ御礼之段御祝儀旁申上候、殊外御機嫌之旨小右方具ニ被申聞候

一 其以後道伯被罷出候ニ付、同道いたし罷出御あいさつ申上、扱道伯退出之時分、今朝御懸物指上ケ候儀、御直ニ被仰聞

過分冥加至極成仕合也、扱道伯退出以後拙者も罷帰候御、又松下左五之丞を以、今朝御懸物指上ケ申、御満悦ニ被為思召之旨被仰聞候、重畳冥加至極成仕合可申上様無御座候由、左五之丞方へ申達、昼時分ニ帰宿仕候

一 今朝立春之為御祝儀如例御看指上ケ申候、将又歳暮之御祝儀も今日上り申候ニ付而、是又如例御看一種指上ケ申候

一 今晚上使水野与左衛門殿当地へ御着可有之由ニ付、日之人前ニ罷出御機嫌をも奉伺候、夜ニ入医者衆罷出候節致御目見候処ニ、今日ハ御声もた、せられ候由、拙者ニ被仰聞候、別而目出度春之始ニ而御座候旨申上候、了念、快遊、三説も其節罷出御祝儀申上候

一 左京様ニ山口迄被成御座、今晚上使爰元へ御越候儀ハ御延引被成、山口ニ御一宿候而、明朝当地へ御着候様ニと御意被成候ニ付、今晚ハ上使山口ニ御一宿也、左京様五時分ニ山口今直ニ御新宅へ被成御座候ニ付致御目見、五過ニ帰宿仕候

一 今日之御食事三十目ほとこの由

同廿九日

上使水野与左衛門殿今朝五過ニ御当着、御宿ハ水野対馬守

所也、大殿様為御名代左京様御迎ニ御出被為成、其以後上使御宿へも御出被為成候

一四過ニ上使御新宅へ御出被成候、御病中故則御座之間ニ而御対面被遊上意之段被聞召、奉書をも御請取被為成、御請をも則被仰上候

一其以後表御座之間ニ而御振廻御拍子御座候、為御名代左京様御相伴被遊候、御盃之上ニ而大殿様代金五枚吉景之御腰物被進之候、拙者ニ持罷出候様ニとの御意ニ而相勤申候、御拍子三番、養老、東北、祝言也、其内帯刀、拙者、平右衛門、市十郎、平次右衛門、九郎左衛門、源左衛門、久右衛門、庄次良、左五之丞已上十人罷出、上使之御盃被下候一其以後御囲ニ而御茶被進之候、左京様御手前也、御掛物ハ一山一行物、御花入青地かふりなし、御茶入大坂かた付、御茶碗織部いど茶碗也、右ハ左京様之御道具也  
一御茶過候而御座之間ニ而後段出、其以後御奉書之御請左京様上使へ御渡シ被成候、左京様へも上意御座候ニ付、其御請をも被仰上候

一扨上使御退出也、追付左京様上使御宿へ御出被成候、八時分ニ上使御立被成候、又左京様為御名代御送り被成候、拙

者儀今朝日出時分ニ先御新宅へ罷出御機嫌奉伺、夫の上使御宿へ參、門外迄御迎ニ罷出、夫の書院へ同道いたし、扨宿へ立寄長袴着シ御新宅へ罷出、上使御出候節御門外迄御迎送り、其外右之通相勤、扨上使御帰候と則御宿へ參あいさつ仕、御立之節又門外迄御送りニ罷出、八過ニ帰宿仕候

一大殿様御不例無、心元存候由、水野監物、同越中、同右衛門大夫方之拙者へ伝言御座候、則達御耳上使へ乍慮外御心得被下候様ニと申達候

一從尾州様為御使者跡部又兵衛殿と申仁被參候ニ付、七過ニ見廻申候処ニ、御新宅へ被罷出候ニ付而申置、夫の直ニ御新宅へ罷出又兵衛殿ニ逢申候処ニ、尾州様御意之段被申聞候ニ付、則御礼申上直ニ御新宅ニ罷有、夜ニ入医者衆罷出候節致御目見候処ニ、今日ハ上使御馳走首尾能相調、御大慶ニ被思召之旨被仰聞候、重畳目出度奉存之旨申上、五前ニ帰宿仕候

一今日之御食事三十三匁ほどの由

同晦日

今早天ニ罷出候処ニ、はや医者衆罷出候時分ニ而則致御目

見候処ニ、被為懸御言葉候、御機嫌能目出度年之暮ニ而御座候旨申上御前致退出、夫々直ニ渋屋長怡所江見廻候而、五前ニ帰宿仕候

一四時分ニ又罷出候、頓而長怡出被申御对面被成御脈何被申候、其節同道いたし罷出御あいさつ申上候、寿安療治之様子をも委御聞候而、一段尤之由あいさつ也

一御脈以後左京様ヲ御使ニ而、今度上意を以御越候間、幸と長怡御葉可被召上之由御意被成候処ニ、長怡被申候ハ免も角之御意次第ニ可仕候へ共、只今迄之御葉御相応と相見へ

候処ニ、御葉被為替へ候儀如何布奉存候、先只今迄之御葉被召上、自然滞申儀も御座候ハ、そこニ而ハ何もと相談可仕候、此段御為ニ可然と存候而か様ニ申上候、誓言を以御申候、其段左京様被仰上候処ニ、左候ハ、先長怡被申次第ニ可被成との御あいさつ也、其以後御振廻出申候、拙者儀昨日ハ散々風ヲ引申候へ共、おし候而右之通相勤、先昼過ニ帰宿仕候

一今晚左京様ニ而道伯御振廻被遊候ニ付、拙者ニも致伺候候様ニと兼日被仰聞候へ共、右風氣故御断申上御免被成候、就夫右御礼又ハ歳暮為御祝儀七半時分ニ致伺公候処ニ、未

道伯退出無之、御茶御立可被成との御時分ニ而、幸の所へ参候とて則御茶之相伴ニ被仰付候、御茶入大ぶんりんかた付、御茶碗大がうらい也、御茶済、道伯暮合ニ退出被致候、拙者儀ハ直ニ御新宅へ伺公いたし候処ニ、頓而医者衆罷出候ニ付致御目見候処ニ、被為懸御言葉候、御機嫌能被為成御座、別而目出度歳暮ニ而御座候旨申上、六半前ニ帰宿仕候

一今日之御食事大かた昨日之通程

